

岡山県学校図書館研究集録

第 56 号

令和元年

— 2019 —

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会
会長 高槻 信博

本年度も会員の皆様の積極的な研究実践と御協力に支えられ、諸事業を実施し滞りなく終えることができました。各学校におかれましても図書館の魅力増進や生徒の読書指導の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会の取組への御支援・御協力を賜り心より感謝申し上げます。

このたびその活動記録として、「岡山県学校図書館研究集録第56号」を作成いたしました。平成26年度までは、印刷製本してまとめていましたが、経費削減のため平成27年度からはホームページに掲載し、公開させていただいております。

さて、岡山県学校図書館協議会は大変歴史のある協議会であり、今年度は70周年記念の研究大会を開催することができました。70年の歴史の中で多くの方々の御尽力により、学校図書館はその時代の変化とともに様々な機能を果たしながら発展してきました。近年は社会の急激な発展にともなって教育界にも大きな変化が起こり、学校図書館にはさらなる期待が寄せられています。御存知のとおりこの度の学指導要領の改訂により、総則においては学校図書館の利活用や読書活動の充実が規定され、「読書センター」の機能のみならず「情報センター」「学習センター」としての機能充実にも重きを置かれるようになりました。また情報化の流れの渦中、あらゆる方法で受け取る曖昧な情報に翻弄させられる今日の社会状況において、自ら考え行動することが大切にされています。日々の学習の中で身につけたことをもとに、図書館で様々な本を読み様々な方法で情報を入手し、そして思考し判断する力を自ら身につけられる児童・生徒を育てることを期待します。

これらを充実させたり育んだりしていくためには、校内における連携はもちろん、校種を越えて段階的に指導を積み重ねることが必要であると言われていています。社会状況の急激な変化に対応して、生徒が発達段階に応じた形で読書活動や図書館を活用した学習に主体的に関わったり参加したりできるように、学校図書館に携わるもの同士が様々な面で協働・連携し、その環境を整えていくことが大切です。今後も本協議会を中心とした学校図書館の充実に、御理解・御協力をいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この研究集録を作成するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係者の皆様に厚く感謝申し上げます、巻頭のあいさつといたします。

目 次

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会創立70周年記念

第53回岡山県学校図書館研究大会（岡山大会）……………1-1～12

令和元年度岡山県学校司書研修会（50周年記念大会）……………2-1～3

第65回青少年読書感想文岡山県コンクール……………3-1～13

第31回読書感想画岡山県コンクール……………4-1～4

絵本研究部会……………5-1～5

優良図書研究部会……………6-1～9

指定図書選定委員会……………7-1

その他

- 1 令和元年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告……………8-1
- 2 令和元年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告……………8-2-1～14
- 3 岡山県学校図書館協議会組織図……………8-3
- 4 岡山県学校図書館協議会規約……………8-4-1～2
- 5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則……………8-5
- 6 岡山県学校図書館協議会69年の歩み（略年表）……………8-6-1～6

各教育委員会教育長 様
 各 学 校 長 様
 各幼稚園・こども園長 様
 関係 各 位

岡山県学校図書館協議会 会長 高槻 信博
 岡山県学校図書館研究大会 実行委員長 姫路 勲

岡山県学校図書館協議会創立70周年記念 第53回岡山県学校図書館研究大会（岡山大会）のご案内 （第2次）

第53回岡山県学校図書館研究大会を下記により開催いたします。公務ご多用のこととは存じますが、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 期 日 令和元年8月23日（金）
- 2 会 場 岡山ふれあいセンター
〒702-8002 岡山市中区桑野 715 番地 2 TEL (086) 274-5151
- 3 主 催 岡山県学校図書館協議会
- 4 共 催 岡山県小学校教育研究会 岡山県中学校教育研究会
岡山県高等学校教育研究会 岡山県国公立幼稚園・子ども園教育研究会
岡山教育事務所管内図書館協議会 岡山地区高等学校図書館協議会
- 5 後 援 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会
岡山県市町村教育委員会連絡協議会
岡山県読書推進運動協議会 全国学校図書館協議会

6 大会テーマ

児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して
 ～ 学校図書館の機能を活かして ～

7 趣 旨

近年、知識・情報・技術の変化が加速度的になり、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展している。さらに人工知能の発達などからも、人間としての価値や生き方を再認識する時代となってきた。このような時代だからこそ、人としての感性を働かせ、より豊かな社会や生き方、そして未来を創造していかなければならない。そのためには、未来を担う子どもたちが様々な課題を自ら設定し、必要な情報を見出し、他者との協働や対話により、深く学ぶことが重要である。さらに自分の考えを創りだし、新たな価値を生み出していくことが求められてもいる。

学校図書館は「学習センター」「読書センター」として、まさに子どもたちの主体的で、他者との対話による深い学びを創る場である。

本大会では、研究主題「児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して～学校図書館の機能を活かして～」のもと、学校図書館の役割や使命を再確認し、全体会や分科会の研究協議により、これからの学校図書館の目指すべき姿を探っていきたい。

8 日 程

9:30	10:00	10:40	12:20	13:20	15:50
受付	開会行事	講 演	昼食・移動		分科会

講演終了後10分間の諸連絡をさせていただきます

『物語を編む・物語を手渡す』

講 師 村中 李衣 先生

講師プロフィール 絵本作家 文学作家 ノートルダム清心女子大学教授
 【受賞作品】 1983年「かむさはむにだ」日本児童文学者協会新人賞
 1984年「小さなベッド」サンケイ児童文化賞
 1990年「おねいちゃん」野間児童文芸賞
 2013年「チャーシューの月」日本児童文学者協会賞 他
 【新刊・近刊】『いつか、太陽の船』『あららの畑』『こくん』
 【教育活動】 絵本の読みあいプログラム作成他今までに光村図書6年、
 東京書籍4年上の国語教科書に作品掲載



10 参加費等 参加費 無料 (弁当は、当日 700 円 (お茶付き) で販売します)

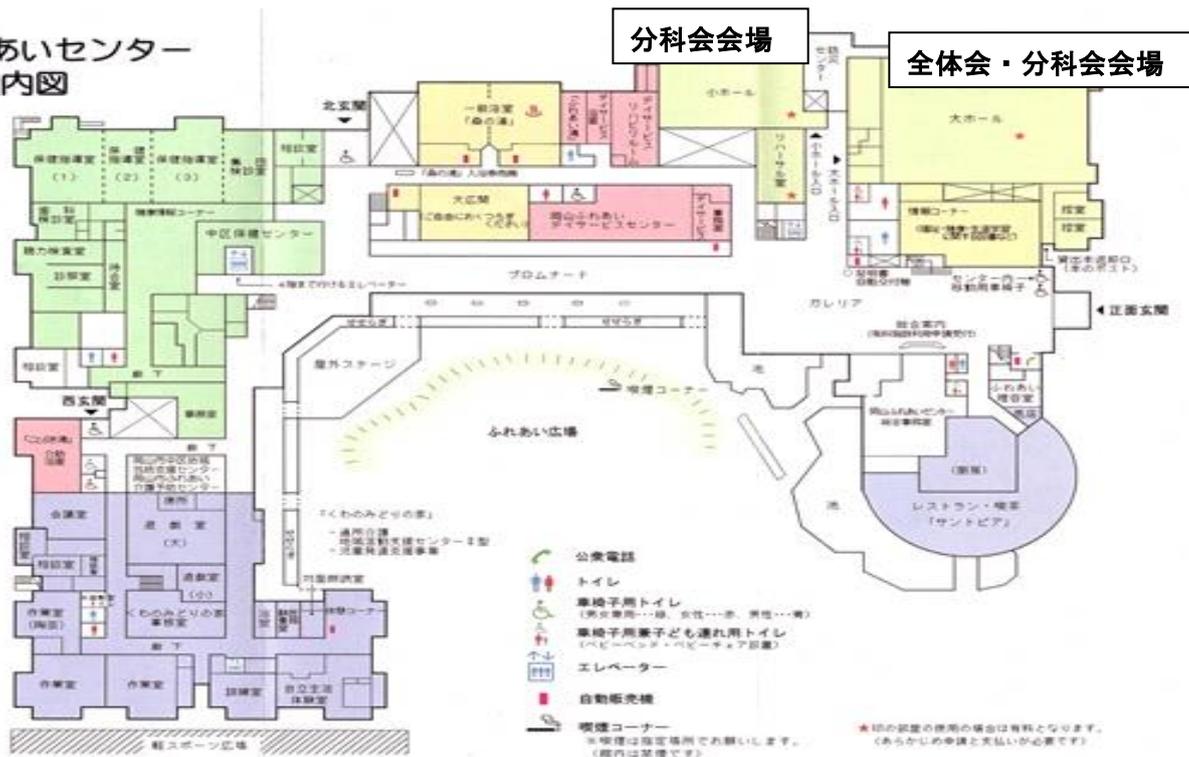
11 参加申込 岡山市立岡輝中学校 海野 行晴 宛
 〒700-0867 岡山市北区岡町 12-17
 TEL (086) 224-0358 FAX (086) 224-0359
 申込み用紙は裏面にあります。(岡山市内はメール便が使用できます)

12 分科会

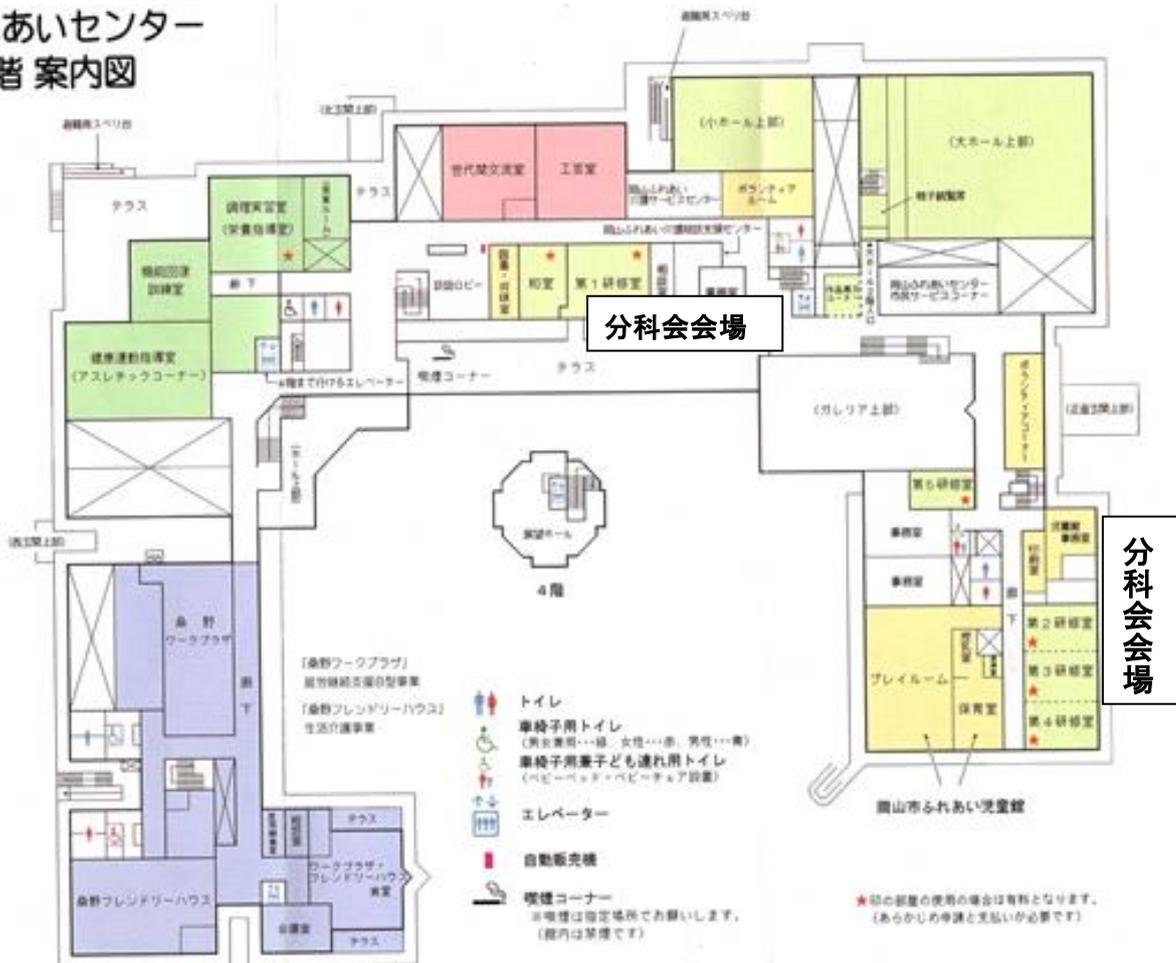
	テーマ	主 題	発 表 者	助 言 者
分科会 A	学校図書館の運営・連携	生きる力をはぐくむ学校図書館をめざして ～校内の体制づくりを中心に～	倉敷市立豊州小学校 後藤 歩 (教諭) 吉賀 静恵 (司書)	岡山県立 和気閑谷 高等学校 香山 真一 (校長)
		『つなぐ』図書館運営 ～生徒・教員・授業・行事～	倉敷市立郷内中学校 真喜志悦子 (教諭)	
		地域とつながる学校図書館 ～美作支部の取組から～	県立津山高等学校 岡山県作陽高等学校 松本めぐみ (司書) 岸部三枝子 (司書)	
		学校図書館の機能を活かした授業づくりと図書館 づくり ～特別支援教育の視点から～	岡山市学校図書館協議会研究部	
分科会 B	豊かな心を育み、読書の楽しさを 味わわせる学校図書館	子どもたちと本をつなぐ親しみのある学校図書館 をめざして	赤磐市立笹岡小学校 藤原 有希 (教諭)	岡山県立 高 梁 高等学校 蟻正 教子 (校長)
		生徒が主体的に活動する図書委員会を目指して	真庭市立落合中学校 大佛 一男 (教諭)	
		図書委員を中心として読書活動に取り組む図書館 運営～貸出数5,000冊をめざして～	岡山県立倉敷天城高等学校 西尾 武雄 (教諭)	
		豊かな心を育む読書活動「みんな仲良し笑顔いっ ぱいの七区小学校」を目指して 読書の楽しさが深まる読書活動に取り組んで	岡山市立七区小学校 幸務 美和 (教諭) 神田 裕梨 (司書) 岡山市立彦崎小学校 糸島佐代子 (教諭) 橋本 展枝 (司書)	
分科会 C	言語活動の充実を支える学校図書館	豊かな言語活動につながる資質の育成 ～図書事務補助員との連携～	勝央町立勝央北小学校 中村由美子 (教諭)	岡山県立 高梁城南 高等学校 松下 泰久 (校長)
		言語活動の充実に向けた多角的な学校図書館の 利用 ～玉野支部7校の取組から～	玉野市立宇野中学校 小川 美穂 (教諭)	
		言語活動を意識した学校図書館の取組	岡山県立勝山高等学校 松尾 幸恵 (教諭)	
		主体的に短歌をあげよう ～言語活動の充実を支える学校図書館～ 言語活動の充実を通して、豊かに学び合う授業を 支える学校図書館	岡山市立灘崎中学校 中 亨 (教諭) 長久 陽子 (司書) 岡山市立灘崎小学校・追川分校 守安 佳子 (教諭) 村上 詩織 (司書) 石井 恵子 (司書)	
分科会 D	心をつなぐ 絵本	心をつなぐ絵本	岡山市立鹿田幼稚園 篠 崇敏 (教諭)	岡山市立 中央図書館 石原恵以子 (司書)
		読み継がれる絵本 ～「かこさとし」を中心に～	岡山市立岡山後楽館高等学校 山本 泉 (教諭)	

会場案内図

岡山ふれあいセンター
1階案内図



岡山ふれあいセンター
2・4階案内図



参加申し込み（7月8日までにお申し込みください。）

下記の申込書に必要事項記入の上、FAX（岡山市内メール便可）でお申し込みください。

準備の都合上、弁当の注文についても、必ずご記入ください。

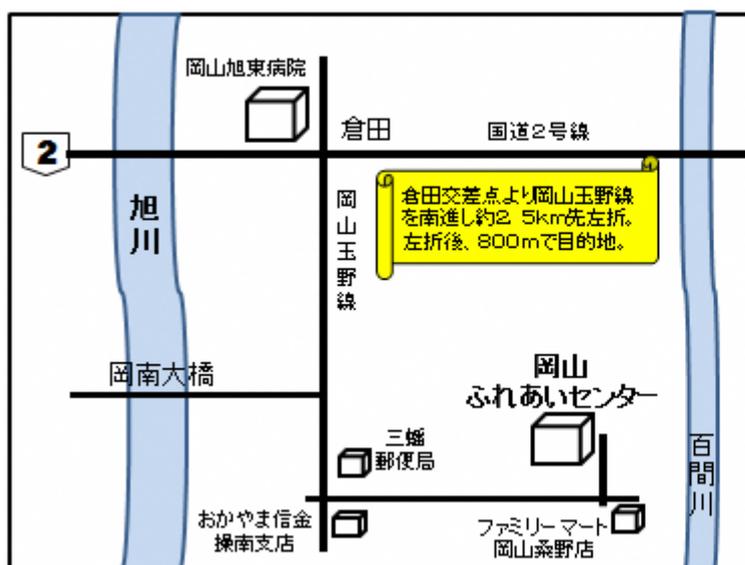
FAX番号（086）224-0359（付け紙不要です。このままお送りください。）

----- 切り取り線 -----

岡山市立岡輝中学校 海野 行晴 宛

第53回 岡山県学校図書館研究大会（岡山大会）参加申込書			
所属・学校園名			
職名	氏名	参加分科会	弁当の注文
		A・B・C・D	有・無

参加分科会・弁当の注文については、あてはまるところを○で囲んでください。
申し込み締め切り 7月8日(月)



岡山ふれあいセンター
〒702-8002 岡山市中区桑野 715-2
TEL (086) 274-5151

【問い合わせ】
岡山市立岡輝中学校 海野 行晴
〒700-0867
岡山市北区岡町 12-17
TEL (086) 224-0358

「分科会A 学校図書館の運営・連携」研究協議の概略

発表者	後藤 歩	(倉敷市立豊洲小学校 司書教諭)
	吉賀 静恵	(同上 学校司書)
	真喜志 悦子	(倉敷市立郷内中学校 司書教諭)
	松本 めぐみ	(岡山県立津山高等学校 学校司書)
	岸部 三枝子	(岡山県作陽高等学校 学校司書)
	西田 祐子	(岡山市立芳泉中学校 教諭)
指導助言者	香山 真一	(岡山県立和気閑谷高等学校 校長)
運営責任者	土屋 絵美子	(岡山市立雄神小学校 教諭)
司会者	綾部 慎太郎	(岡山市立岡山中央中学校 教諭)
記録者	小出 真規	(岡山大学教育学部附属小学校 教諭)
	田辺 弥子	(岡山市立浮田小学校 教諭)

<発表1>

生きる力をはぐくむ学校図書館をめざして
～校内の体制づくりを中心に～

研究協議 (○意見, 質問 ●回答)

- 小学校と中学校での図書館の重要度が違うと感じた。図書館計画書, 図書館教育部などがあることは意義のあること。
- 小学校と違い, 中高では図書の時間は取れない。そうした難しい中で教科の教員と学校司書が連携できるように, 先生方と協力体制が作れるようにしていきたい。

<発表2>

『つなぐ』図書館経営

～生徒・教員・授業・行事～

研究協議 (○意見, 質問 ●回答)

- 行事に関する特設コーナーで道徳科との関連は難しいのではないかと。様々な内容項目がある。
- 「件名検索」という方法で, 本の内容, 主題についての検索ができる。道徳科の価値内容に沿って検索をして図書を集める。道徳教育は学校全体での取り組み。学校全体を見ることのできる司書の先生の支援が大きかった。
- 郷内中学校は貸出数地域でトップ。司書だけでなく校務担当の方など, 学校全体で図書館や読書活動を支えている。中学校でも授業で図書館を活用していただ

るとよい。様々な教科で授業に活用していただけると司書も勉強になる。

- 中学生がどうやったら図書館へ来てくれるか, 先生が授業でどう活用してくれるのかといったことを考えながら仕事をしている。中学校の実践ではあったが, 小学校のような部分もあって, 小学校で行っていることが中学校でも使えるのではないかと感じる事ができた。

<発表3>

地域とつながる図書館

～美作支部の取組から～

研究協議 (○意見, 質問 ●回答)

- 小学校でも本の福袋は授業とつなげながらできそう。同じようなことを取り組んでも高校生が行うと出来栄えが違う。学校図書館は興味がある人にしか見てもらえない。地域の商業施設に出て行って見ってもらうことには大きな意義がある。
- 次年度以降も計画されているのか。イベント参加者に向けて, 高校生が運営をしているということをどれくらいアピールできているのか。
- 津山市立図書館からも継続はどうかと問い合わせが来ている。高校生を動かすとすると高等学校の先生も巻き込むことになる。2年に1回程度開催できればと考えている。会場では, 高校生が最前線

運営にあたった。参加者へアピールできたのではないか。展示パネルからもアピールできていると考えている。

<発表4>

学校図書館の機能を活かした授業づくりと
図書館づくり

～特別支援教育の視点から～

(研究部としてまとめた内容を発表)

研究協議 時間の都合で協議時間なし。

<指導助言>

「児童・生徒の主体的，対話的で深い学び
を目指して」

第4次岡山県子供読書活動推進計画を踏
まえた学校現場での取り組みについて，実
際の話聞くよい機会であった。読書セン
ターとしての機能の話だけでなく，居場所
確保，地域とのつながりなど，計画を踏ま
えた活動の具体について学ぶことができた。

伊木洋先生（NDSU）の実践の話について
触れたい。伊木先生は，単元の構想が浮か
んだら，図書館司書にその構想を伝える。
そうするとふさわしい資料をリストアップ
してくれる。今日の話の中にもそうした司
書の方の取組がたくさんあった。伊木さん
は，単元構想を作る際から司書の方を巻き
込み，協働し合いながら授業を作ってい
った。理想的な取り組み方だと考える。伊木
さんは，図書館を使いこなす力を付けさせ
るために，生徒を公共図書館へ出向かせ
せ，リアルな学習を組み立てられていた。自己
評価，学習記録をポートフォリオとしてつ
けさせるという実践もあった。伊木先生
の実践での足跡が今，それぞれの学校での
実践にも生きているのではないかと感じた。

あえて付け加えるなら，大会のテーマは
「児童生徒の主体的，対話的で深い学びを
目指して」。生徒一人一人が主体的でな
ければならない。対話というと生徒同士
だけでなく多様な人やものとの対話が求
められる。深い学びと合わせてこの3つ
を見ると，ペーパーテストを乗り越えて
いくような豊かな学びが実現されなけ
ればいけない。

3つの資質・能力についての評価につ

て。全国学テでは，知技や思判表の一部
しか図れていない。ではどうするか。そ
のためにも図書館が必要。学校では目
標準拠評価を主に行っている。理想を
言えば，みんなが5をとればよい。が，
実際にはそうした目標設定は難しい。
どうしても2や3が出る。今，個人内
評価に光があたってきている。また，
「学びに向かう力，人間性等」の人間
性は数値でははかれない。子供の時間
軸でその成長をはかっていく。評価の
工夫としてルーブリック（評価指標）
づくりがある。それを生徒にも示して
いくことも方法として考えられる。ル
ーブリックづくり自体を子供達と後か
ら行うということも考えられる。十分
な評価が得られなかった子供も次は
がんばろうという気持ちになるかも
しれない。ルーブリックづくりを司書
と教諭が協働していけば，評価でも
図書館との連携が考えられるのでは
ないか。

また，学校図書館についてのポート
フォリオを作っていくこともできるの
ではないか。本を読んでどう考えたか，
どのような成長があったか，それを積
み上げていくことで，そうして学校で
学び続けていくことで，図書館を使
って生きる人になっていくのでは
ないか。英国では，ラーニングレ
ビューミーティング（ロックザム小
学校）という取り組みがある。毎学
期，どのような学びがあったかとい
うことを継続的に発表していく。最
初はうまくいかないが，だんだん高
まっていく。図書館に引き寄せて取
り組めると貸し出し冊数も増えてい
きそう。そうしたことを今日の発表を
聞いて考えた。



「分科会 B 豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館」研究協議の概略

発表者	藤原 有希	(赤磐市立笹岡小学校 教諭)
	山口 晃奈	(赤磐市立笹岡小学校 学校司書)
	大佛 一男	(真庭市立落合中学校 教諭)
	神尾 拓哉	(真庭市立落合中学校 学校司書)
	西尾 武雄	(岡山県立倉敷天城高等学校 教諭)
	幸務 美和	(岡山市立七区小学校 司書教諭)
	神田 裕梨	(岡山市立七区小学校 学校司書)
	川西 陽子	(岡山市立七区小学校 前学校司書)
	糸島佐代子	(岡山市立彦崎小学校 司書教諭)
	橋本 展枝	(岡山市立彦崎小学校 学校司書)
指導助言者	蟻正 教子	(岡山県立高梁高等学校 校長)
司会者	野崎史生里	(岡山市立千種小学校 教諭)
記録者	山内 祐子	(岡山市立牧石小学校 教諭)
	坂本 佳子	(岡山市立西大寺中学校 学校司書)

質疑応答・研究協議

事例発表①

Q：読書期間中、朝の読み聞かせを15分間行っているそうだが、朝のこういった時間を活用しているのか。

A：8時15分から40分が朝の学習の時間である。曜日によって内容がちがうが、火曜日（国語）と木曜日（算数）の授業外の学習時間を使って週2回行っている。

Q：「一人一人の読書傾向の把握が必要」とおっしゃったが、把握した後、どのような支援を考えておられるのか。

A：児童それぞれ興味のある分野がちがう。図鑑やスポーツが好きなお子には、読み物に移行できるよう支援をしていきたいと考えている。

事例発表②

Q：毎月テーマごとの本の紹介を行っているそうだが、テーマはどうやって決定しているのか。

A：季節ものや災害に関することなど、2年間行っていないテーマで、生徒の目を引くものを選んでいく。

Q：ベストブックコンテストについて、どのような本が選ばれているのかなど、もう少し詳しく教えて欲しい。

A：ディズニーの『リメンバー・ミー』や『フォルトゥナの瞳』など映像化された本や、東野圭吾作品などがよく選ばれている印象だ。

Q：図書館利用は男子生徒が多いそうだが、落合中学校生徒の読書傾向を教えてください。

A：9類の文学の本に対し、0～8類のいわゆる知識に関する本が著しく少ないので、小説だけでなく様々な分野の本を収集するようにしている。技術や知識に関する本は、どちらかといえば男子の方が好むため、知識の本を意識して収集した結果、男子生徒の利用が多くなったのではないかと。

指導助言

どの発表も日ごろからの熱意が伝わってきた素晴らしい発表だった。児童や生徒の様子をしっかり把握しながら実践されてきたことが分かり、また、子供たちに本を好きになってほしい、いろんな本を読んでほしいという先生方の思いがひしひしと伝わってくる発表であった。

笹岡小学校の発表では、親しみがある図書館を目指した取り組みを行っていた。学校図書館は子供と本をつなぐ場所であるが、さらに、児童が笑顔になれば、つい行ってみたくなくなるようなたくさんのアイデアを取り入れていた。また、本と出会うためのしかけとして、ペープサート、バースディしおりなど多様なものであり、かつ効果の高いものが考えられていた。その結果、図書館へ行く児童数の増加や、貸し出し冊数の増加につながっていった。

落合中学校の発表では、毎朝、「朝読書」を行うことで、生徒が落ち着いて1日を始めることができている、さらに全校生徒のしおりコンクール、近隣の中学校との読書郵便交流など、さまざまな充実した取り組みを行っていた。また、生徒の実態やニーズに応じて、蔵書をそろえるという基本に戻った取り組みを行うことで、男子の利用者数が増加につながり、本当に示唆に富んだ発表であった。朝読書を26年間も続けられている背景には、校内の先生方の協力体制や意志の高さによるものであったのではないだろうか。今後、読書郵便交流を全県下で広げるという目標を掲げられており、期待している。

倉敷天城高等学校の発表では、図書館運営という視点で実践を行っていた。特に、図書委員がHR活動を行ったり、学校祭でのイベントで活躍したりなど、生徒の活動が印象的だった。また、運営という面では、HR読書会を図書行事としてきちんと位置付け確実に実施をしていることで、年間貸し出し冊数の増加、5000冊突破という成果につながっているのではないかと。古本雑誌市・ふろくくじでは、準備が大変ながらも魅力ある図書館運営をしていることに敬意を表したい。

七区小学校の発表では、豊かな心を育む読書活動を通して「みんな仲よし笑顔いっぱい七区小学校」に近づけるという明確なコンセプトのもとに、学校、地域全体での実践を行っていた。実践の中で、校長先生、担任外の職員も加わった読み聞かせが印象に残った。また、異年齢の児童や地域のボランティアによる読み聞かせなど継続的にさまざまなシチュエーションで本に親しみがもてる視点を学校が作り出している。読書活動の成果を考えさせられる発表だった。一番大切なのは、子供の変容ではないだろうか。1人でも2人でも読書を楽しみにし、思いやりのある子へと成長してくれたら成果として考えられるのではないかと思う。

彦崎小学校の発表では、元々、充実した図書館活動を行っており、さらに読書が苦手な児童や偏った読書傾向の児童に対し、どう向かっていくかが考えられた実践を行っていた。印象に

残ったことは、個の支援を考えたこまやかな授業支援である。この図書館の活動が、彦崎小学校のテーマである読書の楽しさに深まりをそえている。さまざまな活動の中でも、読み広げをすすめることで児童の関心が高まり、楽しんで読書ができるようになったという成果を残した。今、主体的・対話的に深い学びがもたらされているが、このように図書館と授業とがタイアップすることで、より効果的な深みのある学びにつながっていくのではないかと考える。



「分科会C 言語活動の充実を支える学校図書館」研究協議の概略

発表者	中村由美子	(勝央町立勝央北小学校 教諭)
	福井 純子	(勝央町立勝央北小学校 図書事務補助員)
	小川 美穂	(玉野市立宇野中学校 教諭)
	松尾 幸恵	(岡山県立勝山高等学校 司書教諭)
	守安 佳子	(岡山市立瀬崎小学校・迫川分校 司書教諭)
	村上 詩織	(岡山市立瀬崎小学校・迫川分校 学校司書)
	石井 恵子	(岡山市立瀬崎小学校・迫川分校 学校司書)
	中 亨	(岡山市立瀬崎中学校 司書教諭)
	長久 陽子	(岡山市立瀬崎中学校 学校司書)
指導助言者	松下 泰久	(岡山県立高梁城南高等学校 校長)
運営責任者	八田八寿子	(岡山市立旭東小学校 教諭)
司会者	岸 幸恵	(岡山市立富山中学校 教諭)
記録者	小西 真実	(岡山市立曾根小学校 学校司書)
	石井 法子	(岡山市立福田中学校 教諭)

どの取り組みも本をどう児童生徒に手渡すかということが課題である。また授業者と司書の綿密な打ち合わせが重要であった。

勝央北小学校での取り組みでは、図書事務補助員と連携して、活字離れ、本離れ対して地道な取り組みを続けていくことで生徒の主体的な活動につなげている。おすすめの本50選の取り組みは、自分が本を読んだ感動だけにとどまらず、おすすめしたい本を紹介したカードを掲示し自分の言葉で語ることで読書を自分のものにしており、他者に発信することで、読書の輪の広がりがつくられている。また、PTA親子読書では親子での取り組みや、地域の図書館や職員室前の特設コーナーなどで、大人の本への関わりに児童生徒が触れることができ、このことも児童生徒へのよい影響がうまれるだろう。

玉野支部7校の取り組みでは、現在、主体的な学びとして調べ学習はさかんに行われているが、Web上のデータが真実かどうかをみきわることなくネット検索を利用する機会が多い状況のなかで、活字とむきあい、じっくりと調べるための学習センターとして図書館の機能を生かす取り組みが紹介されている。中学校では図書の時間がなくなるため、図書館へ行く機会を設けることが必要であり、また作品の掲示を図書館で行うことで、他の学年や他の教員の目に触れることができ、広がりがうまれる。さらに中学生が小学生にみてもらおうなどといったことも可能であろう。玉野支部7校はこの研究発表を

機会にお互いの取り組みを紹介しあう取り組みができた。今後さらに他校での取り組みを校内の他の教員に紹介していくことでもっと深めていくことができると考えている。

勝山高校での取り組みは、朝読ブックトークやビブリオバトルやNIEといった図書館活動を通じてコミュニケーション力の伸長をはかるものだ。伝えていることと伝わっていることは違うことがよくあるが、相手に伝わる話し方や良い聞き手となる力をつけるのに効果的な取り組みが紹介されている。これらの活動に必然性を生徒にもたせてやる気をもって取り組ませるために、どういう力をつけさせたいかということ伝えることで、見通しをもって活動し、力がついたと実感できる工夫や、図書委員や教員が宣伝や声かけを多くする工夫がある。また、社会を知るという意味でNIEの取り組みは効果的だ。言葉を切り取るだけでも周りのニュースに自然に目がいくのではないかと考えられる。さらに切りとったものを家族に紹介すると家族との対話が生まれ新たな広がりがあられるのではないかと意見もでた。新聞をとっていない生徒のためには、自由に切り取ってよい新聞が、図書館、校内、寮などのあちこちにおき、取り組みやすくする工夫をしている。

瀬崎小学校・迫川分校での取り組みでは、小学校1年生から図書館を利用することに出会い、図書館の利用の仕方を学んでいる。教科書の関連図書を手にとれるようにする工夫や、図書館

前に児童に調べたいと思わせる物と関連図書を一緒に置くことで児童に「もっと調べたい」「調べることが楽しい」「図書館っておもしろい」と思わせ、本で調べたいと図書館へいく児童を増やしている。

灘崎中学校での取り組みは、図書館で調べることで理解をしていく取り組みだ。図書資料の短歌の解釈の学びに触れて、それを自分で感じる事が自分の学びになっている。あえて図書資料を利用して調べ、自分の言葉でまとめ、短歌を自作してコンテストに応募し、メディアリテラシーを学んでいる。



「分科会 D 絵本部会 心をつなぐ絵本」

発表者	① 山本 泉	(岡山市立岡山後楽館高等学校 教諭)
	② 篠 崇畝	(岡山市立鹿田幼稚園 教諭)
指導助言者	石原 恵以子	(岡山市立中央図書館 司書)
運営責任者	久米 慶典	(岡山市立瀬戸中学校 教諭)
司会者	小野 祐三子	(岡山市立桃丘小学校 教諭)
	酒本 薫	(岡山市立江西小学校 教諭)
記録者	片岡 里梨	(岡山市立妹尾小学校 教諭)
	早川 夕加里	(岡山市立岡南小学校 教諭)

【研究発表① 発表者 山本 泉
読み継がれる絵本～「かこさとし」を中心に～】

多くの生徒が『かこさとし』を知っているか」との問いに「知らない」と答えるが、実際の絵本を見せると、「読んだことがある」といった反応が返ってきた。

〈作品〉

- ① 『からすのパンやさん』『どろぼうがっこう』生徒の反応が最も高かった絵本。
- ② 『だるまちゃんとてんぐちゃん』『だるまちゃんとはやたちちゃん』『だるまちゃんとキジムナちゃん』沖縄、東北などの地方を題材にしていることに注目をしていた。
- ③ 『はははのはなし』『だむのおじさん』虫歯予防など歯の健康について考えた。
- ④ 『おたまじゃくしの 101 ちゃん』『おたまじゃくしのしょうがっこう』
- ⑤ 『かわ』『海』『地球』『宇宙』自然科学を扱ったシリーズに興味を示す。
- ⑥ 『うつくしい絵』『すばらしい彫刻』美術やデザインに興味がある生徒が手に取る。
- ⑦ 『みずとはなんじゃ』最後の作品に「なぜ『水』なのか。」ということに気にする生徒もいた。

〈おわりに〉

多くの生徒が、実は「かこさとし」に触れていたこと、高校生となった今でも、鮮明に内容を覚えていること、公的な場だけでなく、家でも読み継がれていることは確かである。絵本としての作品力はもちろんのこと、その作品に対する姿勢も含めて、今後も「かこさとし」を読み継ぎ、語り継いでいかなければならないと実感させられた。

【研究発表② 発表者 篠 崇畝
こころをつなぐ絵本

～かこさとしさんの絵本を通して～】

自身の幼少期に絵本を読んでもらい、絵のインパクトが強く、印象に残っていた。子どもたちはどんな反応をするのだろうか楽しみしながら、読み聞かせを行うことにした。

〈絵本の実践〉

- ① 『からすのパンやさん』パンをじっくりと見る様子がみられる。
- ② 『からすのおかしやさん』からすのパンやさんと同様に、お菓子がたくさんあるページを見ていた。
- ③ 『こわや おとろし おにやかた』『桃太郎』を思い浮かべた幼児もいた。
- ④ 『はははのはなし』(映像視聴あり) 歯科検診や歯磨き指導が近づいてきた頃をねらって、絵本の読み聞かせを行う。歯は何本あるのか？歯を磨いているか？などといった問いかけに、「歯がなかったら何も食べれんが」「朝も夜も磨いてるよ」などと答える幼児もいた。また、「は」という字を並べてみましょう。というページでは、「はははは…」と読んでいくと、くすくすと笑う幼児の姿が見られた。

〈おわりに〉

かこさとしさんの絵本には、幼児や大人を引きつけるものがある。シリーズものが好きで、続けて借りる幼児の姿も見られた。自然現象や体のしくみについてふれた本も多く、そこから興味をもったり、絵を見て関心を深めたりする幼児もいると思われる。今後も絵本を読み聞かせていきたい。

【質疑応答】

- Q どうしてかこさとしさんの絵本を選んだのか。また、かこさとしさんの本を受け継いでいきたいと思った経緯を教えてください。
- A かこさとしさんが昨年亡くなられたことも含め、作品力や人物のメッセージ性が研究に値すると思ったから。
- Q 山本先生の読み聞かせは総合の時間に限っていたのか。どんな効果があったのか。
- A 総合の時間に限ってはいない。授業の導入として使ったり、テスト終わりの5分~10分で行ったりもした。効果は、生徒の反応が良いこと、読み聞かせが進路などを調べることに繋がったこと。
- Q 絵本を読む速さは目の前の子ども達に合わせているのか。幼稚園で指導はあるのか。
- A 子どもに絵を見てもらうため、普段はゆっくり読んでいる。発達年齢によっても読むスピードは変える。幼稚園で読み方、ページのめくり方などの研修はあるが、それぞれの先生が自分で工夫したり、研究したりしている。

【指導助言】

①篠先生の実践について

子どもたちとの信頼関係が築けている。子どもたちに長い絵本を読むことは難しい。先生が子どもたちに読んでいるという経験や子どもたちに読んでもらっているという経験があるから、また、読み手と聞き手の信頼関係があるからこそ子どもたちも長い話が聞けるのだろう。先生方が読み聞かせを行う意味がそこにある。

実践の中に合った『こわや おとろし おにやかた』はパロディのようで面白い。子どもの方がよく気がつくこともあり、桃太郎とどう違うのかを子どもたち自身が比べるのは面白い。

②山本先生の実践について

心をつなぐ絵本ということで、篠先生がされたように同じ場・時間を使う、共有するということが一体感もてるというので、心をつなぐのではないかと思っていた。読んだことがあるという経験をベースにして話し合うことも心をつなぐことであると再確認した。絵本について職員室の先生方と話もできたと聞き、読んだことがあるという経験が大人同士でも子ども同士でもやはり心をつなぐのだと思った。

先生が出した絵本リストを見て、かこさとしの本は絵本の形をしているけれど内容が濃くて分類のところに入れてしまうのもあると感じた。例えば、土木、歴史、遊びのところに入れてしまう。作者のところだけでなく、他の棚のところにもかこさとしの作品はあるということを感じておいてほしい。

かこさとしさんの作品の中に『宇宙』というものがある。これについて、「主体的で対話的でそして深い学びのために」という題目で書かれた科学者向けの本がある。その本には、「この絵本は今から40年も前に主体的対話的で深い学びを子どもたちのみならず大人にも提唱していることに驚かされる。かこさとしの先見の明というか子どもたちへの深い愛情と自然界を見る緻密な視点によって実現された独自の魅力的な世界がそこにある」と書かれている。主体的で対話的で深い学びがかこさとしさんの本の中にあるということは、学校図書館をうまく使っていけば子どもたちがそのような学びができるということに改めて気づかされた。

【本の紹介】

『わたしがぼくが地球のためにできる10のこと』『ぞろりぞろりとやさいがね』『CO₂のりものずかん』『ふたりママの家』『絵本で素敵な学級づくり』『絵本を使った道徳授業の進め方』『読み聞かせの基本』

絵本をいろんなところで上手に使っていくと読書好きの子が育つ。本は読めないより読めた方がいい。最終的に読解力というよりは生きる力を付けるという上で読み聞かせは大事だと思う。また、小さい頃に読んでもらった本はその子の感性を育てると思う。このように絵本にある力を信じてこれからも子ども達に絵本を読んていきたい。



平成 31 年度岡山県学校司書研修会（50 周年記念大会）要項

主催 岡山県学校図書館協議会
岡山県学校図書館協議会司書部会

共催 岡山市学校図書館協議会
備前地区高等学校図書館協議会

後援 岡山県教育委員会
岡山市教育委員会

1 日時 平成 31 年 7 月 30 日（火） 13：00～16：00（受付 12：30～）

2 会場 岡山市灘崎文化センター（岡山市南区片岡 186 番地）

3 日程

12:30	13:00	14:00	14:10	16:00
受 付	開 会 行 事	総 会	休 憩	講 演 会

4 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2018（H30）年度活動報告（理事会活動報告）
- (3) 2018（H30）年度決算報告
- (4) 2018（H30）年度監査報告
- (5) 質疑応答・承認
- (6) 2019（H31）年度役員選出（案）
- (7) 2019（H31）年度活動方針・事業計画（案）
- (8) 2019（H31）年度予算（案）
- (9) 質疑応答・承認
- (10) 情勢報告（地区活動報告・実態調査報告）
- (11) 議長解任

5 講演会

「学校図書館を充実させるには」

講師： 片山 善博（かたやま よしひろ）氏

早稲田大学 公共経営大学院 教授



■片山善博氏プロフィール■

1951年岡山市生まれ。74年東京大学法学部卒業、自治省に入省。能代税務署長、自治大臣秘書官、自治省国際交流企画官、鳥取県総務部長、自治省固定資産税課長などを経て、99年鳥取県知事（2期）。07年4月慶應義塾大学教授。10年9月から11年9月まで総務大臣。同月慶應義塾大学に復職。17年4月早稲田大学公共経営大学院教授。

併せて、鳥取大学客員教授、日本郵船株式会社社外取締役、「デジタル文化財創出機構」理事、「日本司法支援センター（法テラス）」顧問、「角川文化振興財団・城山三郎賞」選考委員、「活字文化推進会議」委員などを務める。

主要著書

- 『地方自治と図書館』（共著）（勁草書房 2016年）
- 『民主主義を立て直す 日本を診る2』（岩波書店 2015年）
- 『片山善博の自治体自立塾』（日本経済新聞社 2015年）
- 『日本を診る』（岩波書店 2010年）
- 『「自治」をつくる』（共著）（藤原書店 2009年）

出演メディア

日経プラス10サタデー（BSジャパン）／報道プライムサンデー（フジテレビ）／
日曜スクープ（BS朝日）／上田晋也のサタデージャーナル（TBSテレビ） など

学校図書館を充実させるには

早稲田大学公共経営大学院教授

片山 善博 氏

■片山善博氏プロフィール■

1951年岡山市生まれ。74年東京大学法学部卒業、自治省に入省。能代税務署長、自治大臣秘書官、自治省国際交流企画官、鳥取県総務部長、自治省固定資産税課長などを経て、99年鳥取県知事（2期）。07年4月慶應義塾大学教授。10年9月から11年9月まで総務大臣。同月慶應義塾大学に復職。17年4月早稲田大学公共経営大学院教授。

併せて、鳥取大学客員教授、日本郵船株式会社社外取締役、「デジタル文化財創出機構」理事、「日本司法支援センター（法テラス）」顧問、「角川文化振興財団・城山三郎賞」選考委員、「活字文化推進会議」委員などを務める。

■主要著書■

- 『地方自治と図書館』（共著）（勁草書房 2016年）
- 『民主主義を立て直す 日本を診る2』（岩波書店 2015年）
- 『片山善博の自治体自立塾』（日本経済新聞社 2015年）
- 『日本を診る』（岩波書店 2010年）
- 『「自治」をつくる』（共著）（藤原書店 2009年）

※講演記録はご意向により掲載いたしません。

第65回読書感想文岡山県コンクール

		審査委員 後藤 歩 (倉敷市立豊洲小学校)
		〃 小野 有加 (倉敷市立天城小学校)
		〃 新谷 咲希 (倉敷市立第四福田小学校)
I 日程		〃 富山 慶子 (倉敷市立児島小学校)
6月13日(木) 応募要項配布		〃 赤木 利治 (倉敷市立徳井田小学校)
第1回支部事務局長会議席上		〃 杉田 真理子 (倉敷市立箭田小学校)
10月1日(火) 応募締め切り(必着)		〃 三村 幸代 (総社市立総社西学校)
応募先・事務局		〃 山根 成子 (笠岡市立大井小学校)
*小・中・・・岡山市立香和中学校		〃 山上 徳子 (高梁市立川面小学校)
笹野 恭代		〃 佐々木 千恵子 (新見市立草間台小学校)
*高校・・・岡山県立倉敷古城池高等学校		〃 近藤 沙矢加 (津山市立高田小学校)
末吉 美加子		〃 梅澤 千波 (勝央町立勝間田小学校)
10月8日(火) 第1回合同審査会		〃 豊田 由美 (美咲町立加美小学校)
～		〃 武本 緑 (美作市立土居小学校)
《審査期間》		〃 福森 裕加 (岡山理科大学附属中学校)
10月24日(木) 第2回審査会(最終審査)		〃 森 さやか (朝日塾中等教育学校)
《小学校・中学校・高等学校 校種別》		〃 小川 美穂 (玉野市立宇野中学校)
12月10日(木) 表彰式		〃 藤本 久美 (倉敷市立東中学校)
		〃 藤原 洋子 (高梁市立高梁北中学校)
II 県審査委員		〃 堀 布沙 (赤磐市立桜が丘中学校)
県SLA会長 高槻 信博 (岡山県立倉敷青陵高等学校校長)		〃 笹野 恭子 (岡山市立香和中学校)
副会長 山本 義人 (岡山市立千種小学校校長)		〃 海野 晴行 (岡山市立岡輝中学校)
〃 水畑 法生 (岡山市立岡北中学校校長)		〃 若狭 真司 (岡山県立邑久高等学校)
安達 一正 (毎日新聞社岡山支局長)		〃 高橋 めぐみ (岡山県立岡山南東商業高等学校)
審査委員 山本 由佳理 (岡山市立竹枝小学校)		〃 福田 裕也 (岡山県立和気閑谷高等学校)
〃 早川 夕加里 (岡山市立岡南小学校)		〃 中道 美紀 (岡山県立岡山豊学校)
〃 三宅 雅之 (岡山市立三門小学校)		〃 龍門 浩次 (岡山県立東岡山工業高等学校)
〃 稲本 多加志 (岡山大学教育学部附属小学校)		〃 小林 和樹 (倉敷翠松高等学校)
〃 大月 美保子 (岡山市立浮田小学校)		〃 山下 敦子 (岡山龍谷高等学校)
〃 岡久 明 (岡山市立雄神小学校)		〃 柳井 典子 (倉敷市立玉島等学校)
〃 土屋 絵美子 (岡山市立雄神小学校)		〃 石賀 朋美 (川崎医科大学附属高等学校)
〃 瀬納 禎子 (岡山市立妹尾小学校)		〃 板谷 香奈 (倉敷市立真備陵南高等学校)
〃 森川 歩 (和気町立本荘小学校)		
〃 中村 国広 (瀬戸内市立美和小学校)		
〃 仙石 典子 (瀬戸内市立美和小学校)		
〃 酒井 恭子 (瀬戸内市立邑久小学校)		
〃 小池 恭子 (吉備中央町立大和小学校)		
〃 河田 かおり (吉備中央町立吉備高原小学校)		

Ⅲ 岡山県指定図書

	書名(シリーズ) 著者名	発行所
小 (低)	『まかせて！母ちゃん！！』 くすのき しげのり	文溪堂
	『おかわりへの道』 山本 悦子	PHP 研究所
	『ぼんやきゅう』 指田和	ポプラ社
小 (中)	『おれからもうひとりのぼくへ』 相川 郁恵	岩崎書店
	『星空を届けたい 出張プラネタリウム、はじめました！』 高橋 真理子	ほるぷ出版
	『まなぶ』 長倉 洋海	アリス館
小 (高)	『よりみち3人修学旅行』 市川 朔久子	ポプラ社
	『野生のロボット』 ピーター・ブラウン	福音館書店
	『しあわせの牛乳』 佐藤慧	ポプラ社
中 学 校	『ウンダー・カンマー ここは魅惑の博物館』 榎崎 茜	理論社
	『明日のランチはきみと』 サラ・ウイークス・ター・ヴァラダラジヤン	フレーベル 館
	『みんなちがって、それでいい パラ陸上から私が教わったこと』 宮崎 恵理	ポプラ社

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
小学校低学年	6,737編	6,402編	6,340編
小学校中学年	11,384編	10,976編	10,478編
小学校高学年	12,085編	11,779編	10,876編
中学校	26,954編	24,661編	23,480編

高等学校	16,117編	13,271編	13,877編
計	73,277編	67,089編	65,051編
応募校数	603校	589校	576校

2) 特別賞受賞者(最優秀賞受賞者)

岡山県知事賞

岡山県立岡山朝日高等学校 2年 相坂陶子

岡山県議会議長賞

鏡野町立南小学校 5年 福田雫月

岡山県教育委員会教育長賞

新見市立新見台石中学校 3年 高瀬麻衣

岡山商工会議所会頭賞

岡山市立宇野小学校 3年 寺澤伊織

岡山市長賞

玉野市立大崎小学校 1年 平藤正堂

岡山県読書推進運動協議会会長賞

岡山市立吉備小学校 1年 奥山結月

浅口市立金光小学校 2年 西山心和

岡山県立津山高等学校 2年 武村優希

毎日新聞社岡山支局長賞

岡山市立平島小学校 3年 高木花寧

総社市立総社中央小学校 4年 芝崎敬柔

岡山県立倉敷天城中学校 2年 佐藤真桜

岡山県学校図書館協議会会長賞

岡山市立吉備小学校 5年 佐藤青

瀬戸内市立邑久小学校 6年 片山祐

矢掛町立矢掛中学校 1年 岡崎彩葉

第62回青少年読書感想文コンクール入賞者

全国学校図書館協議会会長賞

鏡野町立南小学校 5年 福田雫月

審査概評

小学校低学年の部

●自由読書

今年度、自由読書の部で県審査対象となった作品は、一年生が三十編、二年生が三十九編、計六十九編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友達との関わりをテーマにしたもの、動物が主人公になっているもの、戦争や平和について訴えたもの、命について取り上げたもの、伝記、図鑑や動物の生態について知るものと多岐にわたっていた。

本との出会いについては、本の題名や絵に興味をひかれた、家の人に本を読んでもらった、家の人や先生に紹介された、好きな作者の本だった、自分の興味から本を選んだなどであった。

審査を進めていく中で感じたことは、物語の主人公と自分の姿を重ねながら物語の世界を味わい、自分の経験を振り返り、感じたこと、考えたことを素直に綴っているということである。中でも、友だちとの関わりでうまくいかなかったことや悪かったことを反省し、より良い友だち関係を作るためにはどうすればよいかなど、今後の自分自身の成長に繋がる作品が多かった。また、新しい命の誕生をきっかけに、読書を通じて家族との繋がりについて見つめ直し、兄弟や家族に対する感謝の気持ちやこれからの自分の決意の気持ちを表す内容のものも多かった。

今も世界中で起こっている戦争や、記憶に新しい西日本豪雨についても思いをはせ、家族とともに暮らす幸せや平和の尊さについて考え、表現しているものもあった。読書を通じて、いつもの生活が平和で幸せだと気付くことができ、平和な毎日が続くよう自分の思いを素直に綴っている作品が印象的であった。

図鑑や昆虫、植物を題材にした本を読むことで、自分の興味関心を深めたり疑問を解決したり、飼育や観察への今後の意欲付けに繋がる作品も見られた。セミが大好きだという思いがたくさん溢れているものもあった。

表現の方法としては、選書の理由、あらすじと読み取り、読後の感想という基本的な構成ができていた作品が多かった。また、自分が一番心に残った部分を自分の体験や気持ちと重ね合わせながら表現することから始めるものもあった。一方で、この本が大好きだという思いを綴る書き方のものもあり、低学年らしい素直な思いがよく表れていた。いずれにしても、低学年でありながらもしっかりと書けて

いる印象が強かった。

低学年にとっては、八百字に感想をまとめることは容易ではないと思われる。しかし、読書を通して、自分の生活や経験を振り返ったり、新しいことに感動したりして、伝えたいことを表現することができていたことは驚きである。今後はさらに、自分の気持ちを様々な言葉で表現することで、より自分の気持ちを柔軟に表現することにも挑戦して欲しい。

審査を終えて、低学年児童の感性や表現力の豊かさに感動させられた。読書は、子どもたちの物の見方や考え方を変えたり広げたりするきっかけをくれるのだと実感し、読書の素晴らしさを改めて感じる事ができた。これからも、多くの本と出会い、新しい感動や発見を見つけて欲しい。そして、さらに豊かな感性を育てていってくれることを願う。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、一年生十九編、二年生二十八編、合計四十七編であった。課題図書別に見ると、次の通りである。

『魔女ののろいアメ』	二十二編
『心ってどこにあるのでしょうか？』	十四編
『スタンリーと小さな火星人』	五編
『もぐらはすごい』	六編

全体として、自分の体験と重ね合わせ共感したり、新たに知ったことに驚きを抱いたりしたことを、素直に表現している作品が多く見られた。図書別にまとめると次のようであった。

『魔女ののろいアメ』

主人公サキが悪口十個のできるのろいアメをお姉ちゃんに作ろうとするが、なかなか十個言えず反対に良いところを思い出してしまう物語である。

兄弟・姉妹がいる児童は共感しやすく、自分の体験と照らし合わせて考えを深める作品が多く見られた。その中で、妹の立場で、姉の立場でと多面的に見つめ直し、ケンカをするけれど本当は大切な存在であることを「自分にはじ色のアメを作りたい」「天使アメを作りたい」と表現するものもあった。

『心ってどこにあるのでしょうか？』

ほのぼのとしたかわいらしい絵と子どもや動物の語り口調で「心」が体のどこに存在するかを問う絵本であり、児童の感想も自分の体験から「自分は心が体の中の〇〇にあ

と思う。」と自分なりの考えを表現している作品が多かった。また、自分の様々な感情にふれ、体験を振り返られた作品も見られた。心の存在を考えることで、心と体の関係や心の不思議さに思いを深めることができていた。さらに、自分の感情と行動を見つめ直し、よりよく生きようとする前向きな決意も感じられる作品も多く見られた。

『スタンリーと小さな火星人』

お母さんが出張に出かけた日「行ってらっしゃい」と言えなかった主人公スタンリーは火星人間になって、わがままを言ったり友達とケンカをしたりする。多くの感想は、スタンリーの行動描写からその心情を読み取り、「お母さんがいなくて寂しかったんだね。」と理解しようとするものが多かった。また、自分の体験と重ねて、「寂しいときはこうしているよ。」と自分が努力していることを語りかけるものもあった。

『もぐらはすごい』

身近なようでその生態はあまり知られていない動物『もぐら』について、体のつくり、すみか、食べ物、性質などを、詳細に絵や文で紹介されている絵本である。また、巻末に川田伸一郎氏の「モグラ博士の標本室」が掲載されており、より専門的な知識も得ることができる。児童は、この本を読むことで、初めて知った事実への驚きや生きるための知恵や力強さをもつもぐらそのものへの感動を得たようである。感想には、自分と比べたり本の描写を引用したりして素直にその感動を表現する作品が多かった。

感想文が書かれた作品には偏りがあったが、自分の体験と重ね心情を読み取ったり、繰り返し何度も読むことで内容を理解したりと積極的に読解しようとする意欲が感じられた。これからも素敵なお本と出会い、感動や学びを積み重ね、心を豊かにしていってほしい。

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、一年生十二編、二年生十九編、合計三十一編であった。これをこれを図書別に見ると、次の通りである。

『まかせて！母ちゃん！』 八編

『おかわりへの道』 二十編

『ぼんやきゅう』 三編

どの図書も親しみやすい挿絵と興味をひくタイトルで、低学年の児童にとって手に取りやすかったのではないと思われる。また、内容もお手伝い、給食、野球と自分の生活経験と重ね

合わせて読むことができ、感想がもちやすかったのではなかろうか。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『まかせて！母ちゃん！』

主人公のアキヨシは、父ちゃんに犬小屋を作ってもらおう約束をしていたが、父ちゃんは仕事で大けがをし入院してしまう。父ちゃんに元氣になってもらうため、アキヨシは母ちゃんと一緒に犬小屋を作ることにした。うまくいかず、あきらめかけたとき、一人で家庭を支える母ちゃんの様子を知った。そして、アキヨシは犬小屋作りだけではなく、家の仕事も率先して行い完成した犬小屋を父ちゃんに見せることができた。自分がお手伝いしたときのことを思い出し、家族の一員として自分に何ができるかを低学年なりに真剣に考えている姿が多く見られた。実際に父親が入院したとか、単身赴任であるなど主人公に近い経験をした児童もおり、母親の気持ちや兄弟の様子にまで言及した作品もあった。

『おかわりへの道』

給食が苦手なかずみは、担任のりょうた先生を作るおかわり用のおむすびを食べることができない。「へらし」も「のこし」もせず、五番目か六番目に食べ終わるしかもらうことはできないのだから。どうしてももらいたいかずみは友だちのげんやちなの協力で挑戦を続ける。そして、決戦の日と決めた水曜日。しっかり遊んでおなかをすかし、げんに聞いた食べ方で挑戦する。げんとちなの援護もあり、とうとうかずみはおむすびを手にすることができた。という内容である。給食がテーマであるだけに、かずみと同じように苦手だけど頑張ってみた経験や頑張りたいという決意を書いた作品が多かった。また、給食にとどまらず、自分が頑張っているスポーツや英語などの習い事でできなかったことを一つずつ克服していきたいと書いている児童も多くいた。友だちの協力という観点から友情について考えた作品やげんの立場から応援したいと書いてある作品もあった。この図書は、児童の生活に身近で、読書を通して自分の生活を見つめ直すよききっかけになったようだ。

『ぼんやきゅう』

東日本大震災で被災した村には、六十年以上続くお盆の野球大会があった。震災で途切れていたその大会が、七年ぶりに復活することになった。子どもも大人もその大会を楽しみにする。ひろみの父さんのチームは決勝で負けてしまうが、その夜ごくろうさま会でおおいに盛り上がるのだった。この物語は、低学年の児童にとっては少し共感しにくいものだったようで、県審査にあがってきた作品はとても少なかった。しかし、その中には、今年の豪雨災害や身近な川の増水を見た恐怖を思い出し、防災の願いを綴った作品や、なくなった祖父母の思い出と墓参りの様子から家族のつながりについて書いた作品もあった。

全体として、低学年ながら自分の生活に根ざし、読書を通して自分の生活や意識を変革していった様子が見られた。低学年らしい素直な感想や意見が綴られており、八百字という制限の中でも読み応えのある作品が多かった。

自由読書の審査概評

近藤 沙矢加

課題読書の審査概評

佐々木 千恵子

指定読書の審査概評

豊田 由美

小学校中学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、三年生三十七編、四年生三十二編、計六十九編であった。

感想文に取り上げられた本の内容は、動物や自然、生命、戦争、人権、家族、友達など多岐にわたっていた。子どもたちが、物語からノンフィクションまで、幅広い作品に興味をもっていることが分かった。選書の理由としては、家族に薦められたから、学習して興味をもったから、本の題名にひかれたからなど様々であった。

作品の内容については、物語を扱ったものが多かった。その中でも、家族の大切さをテーマにしたものが目立った。「かあちゃん取扱説明書」や「レンタルロボット」がよく読まれていた。自分が知らないところでお母さんがしてくれていたことに気づき、感謝の気持ちをもったという作品や、我慢ばかりで嫌だと思っていたが、弟がいないのは寂しいということに気づいたという作品、わがままばかり

言っていたが、これからは家族の気持ちを考えながら生活をしていきたいと考えた作品など、自分の経験と結びつけて書かれているものが多かった。読んでいて共感できたり、思わず笑えたりするようなあたたかい作品がたくさんあり、子どもたちの心の優しさが伝わってきた。また、昨年に引き続き、ノンフィクションを扱った作品も多数あった。自然を守ることの大切さに気づき、自分にできることは何かを考えた作品、努力し続ける姿に感動し、自分もそのように頑張りたいと決意をしたという作品、戦争の悲惨さを感じ、平和の大切さについて考えた作品など、難しいテーマであっても、中学年の子どもたちなりに考え表現をしたものが多く感心した。

文章表現については、選書の理由、あらすじ、読後感想という構成の作品が多かった。登場人物の体験と自分の体験を重ね合わせたり、新しく知ったことへの驚きを表現したりすることができていた。読後の感想については、難しい言葉ではなく、つたなくとも自分の言葉で表現してある作品は、思いが伝わってきて印象に残った。しかし、同じような構成や表現で書かれているため、全体としてどの作品も似通っていると感じられたことが、非常に残念である。今後は、作品をより魅力的にするために、読書を通していろいろな表現方法や自分の思いを表すための言葉を獲得してほしいと思う。

今回の審査に携わり、本のもつ力、読書のすばらしさを改めて感じる事ができた。子どもたちは読書を通じて自分の生活を見つめ直し、家族や友人の大切さに気づき、戦争や自然破壊などの問題に目を向け、人間や動物の命の尊さを感じている。自分にとって身近なことから世界的な問題まで、幅広い世界に目を向けさせてくれるのが本であるのだ。読書は、様々な見方や考え方、感じ方を私たちに教えてくれる。子どもたちには、今回、感想文を書くにあたって本から感じ取ったことや自分で考えたことを大切にしていってほしいと思う。そして、これからも様々な本と出会い、読書を楽しんでくれることを願っている。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、三年生十四編、四年生二十四編、計三十八編であった。これを課題図書別に見てみると次の通りである。

『かみさまにいたい』

十八編

『子ぶたのトリュフ』

四編

『そうだったのか！しゅんかん図鑑』

十一編

『季節のごちそうハチごはん』

五編

全体として、自分の経験や生活と重ねながら、素直に感動や感想を書いている作品が多かった。図書別にまとめると、次のようであった。

『かみさまにあいたい』

おばあちゃんにうそをつき、最期まで本当のことが言えなかった三年生の雄一。同級生の竜也から「神様」の話を書くことを通して、次第に打ち解け、秘密を共有するようになる。雄一と竜也が友情を育みながら、少しずつ成長していく物語である。

うそをついてしまった自分を許すことができない雄一や、母親との信頼関係を失っている竜也に対する気持ちを共感的に書いている作品が多かった。雄一と竜也の友情に対する感想も多く、友だちってやっぱりいいなという素直な気持ちが書けていた。傷ついた心がどう癒されるのかがテーマの物語と考えるが、友情・家族関係・願い（神様）等の切り口でそれぞれが自分の感想を持っていた。

『子ぶたのトリュフ』

ジャスミンは、よその農場の瀕死の赤ちゃんぶたを連れ帰り、懸命に世話をし、命を助ける。そして、賢い子ぶたに成長したトリュフは、嵐の夜、行方不明になったモルモットを、臭いをたよりに助けに行くという物語である。

児童の感想では、生き物を飼う仕事の大変さや、ぶたの臭覚の鋭さについての驚き、熱心に勉強し前向きに行動していく主人公について書いている作品が多かった。どの作品にも、今の自分と主人公とを比較し、今後の自分の生き方につなげていこうとする感想が書かれていた。

『そうだったのか！しゅんかん図鑑』

普段何気なく見ている物も、その一瞬を切りとってみると、肉眼では見えないものが見えてくる。実際に見えるものとはちがう現象だったり、見えていたはずのものが、実は、残像だったりする。この本は、ハイスピードカメラによる画像を集めた写真絵本である。

肉眼では見えないが、本当はこうなっているんだと驚きをもって読み進めた児童が多かった。また、角度を変えて物事を観察したり考えたりしていきたいと考えた児童や、自分の目で見えるものをしっかり観察していきたいと考えた児童もいた。この本を読むことにより、未知の世界と出

会い、自分の世界を広げていくことができたことを書いた作品が多く見られた。

『季節のごちそうハチごはん』

岐阜県のある地方では、地元の言葉で「へボ」と呼ばれるクロスズメバチの幼虫を伝統食としている。「へボ」を追う・育てる・食べるという過程が写真と文章で構成されている、地域の連帯と食文化についてのお話である。

ほとんどの作品が冒頭で、虫料理に対する抵抗感を書いていた。そして、本書を読み進めるうちに、その抵抗感が変化したという内容の作品が多かった。カマキリを育てた自分と、「へボ」を育てる人たちとを比較したり、祖母が作ってくれる地元の伝統食である「ばらずし」について考えたりした作品もあった。また、人によって当たり前が違うということや、文化が違う中で生まれたルールを尊重したいというように考えを深めた作品もあった。

●指定読書

今回、指定図書の部の県審査対象となった作品は三十五編で、学年別では三年生十六編、四年生十九編であった。これを図書別に見てみると、

『おれからもうひとりのぼくへ』 四編

『星空を届けたい 出張プラネタリウム、はじめました！』 九編

『まなぶ』 二十二編

であった。作品数に偏りはあったが、どの図書も中学年の児童にとって読みやすく、手に取りやすいものであったと思われる。

それぞれの指定図書について感想の傾向をまとめてみると次のようになる。

『おれからもうひとりのぼくへ』

翔平とまさたと遊ぶ約束をしていた智は、自転車で公園へ向かっていた。そこに突然、智と同じくらいの男の子が現れて、正面衝突をしそうになる。その瞬間から、『おれたちの世界とそっくりな世界』へ行ってしまう。その世界の家族や友達、元の世界の家族や友達と性格や様子が少しずつ変わっていた。

ある日突然、『おれたちの世界とそっくりな世界』パラレルワールドに行ってしまった智とその家族と友達打ち解けていくSF童話である。「もし自分がその世界にいらしたらどうするだろう。」と、今の自分と重ねて主人公の不安に共感している感想もあった。また、「元の世界の家族がいい。」「元の世界に戻りたい。」と願うが、

「そっくりな世界」の家族や友達とも打ち解けていった主人公のように、自分から話し掛けたり、遊びに誘ったりして、相手のことをよく知ることが大切だという感想もあった。

『星空を届けたい 出張プラネタリウム、はじめました！』

科学館のプラネタリウムで働いていた高橋さんは、たくさんの人たちに宇宙や星のことを知ってもらうために、プラネタリウム番組を作ったり、イベントを行ったりした。人は、星空を見ると、勇気付けられたり、気持ちが落ち着いたりすることに気付く。そこで、入院していて外に出なくても出られない子どもたちや目の見えない人たちに出張プラネタリウムを始める。

四年生の理科の学習で星に興味をもったからこの本を読もうと思ったという児童が多かった。高橋さんが相手を思う気持ちから何かできないかと常に考えていることが心に残ったようだ。自分のことだけでなくほかの人のことを思いやることが大切だということが心に残ったと書いている児童もいた。好きなことを仕事にするためには、大変なこともあるが、高橋さんのように諦めずに続けていこうと決意を綴った感想もあった。

『まなぶ』

机や椅子がなく、地面にわらを敷き詰めた教室で授業を受ける子どもたち。学校まで、山道を二時間かけて通う子どもたち。学校が無いので、村から先生が来てくれて授業を受ける遊牧民の若者たち。様々な境遇にある子どもたちの「まなぶ」様子の写真から、学ぶ意義を考える写真絵本になっている。

世界には、恵まれない環境の中で勉強している子どもたちがいることを知り、学べることは当たり前ではないのだなと素直な思いを表現している作品が多かった。どうして学ばなければならないのかを家族に尋ね、話し合い、自分のために学び続けるという思いをつづっている作品もあった。本の終盤に出てくる、「自分の道を見つけるために、人はまなぶ。」という筆者の言葉が心に残ったという児童が多く、自分の将来の夢に向かって学び続けていきたいという作品も多かった。

これからも、本を読むことを通して、自分自身の考えや思いを確かめたり、初めて知ったことや新しい発見に喜びを感じたりして、心豊かに成長して行ってほしいと思う。

自由読書の審査概評

課題読書の審査概評

指定読書の審査概評

後藤 歩

山根 成子

新谷 咲希

小学校高学年の部

●自由読書

自由読書の部で県審査の対象となった作品は、七十一編であった。学年別に見ると、五年生が三十二編六年生が三十九編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族、友情、差別、障害、福祉、環境、動物、戦争、人物記など多岐にわたっていた。同世代の主人公が登場する家族や友達との関係を描いた物語。障害のある家族や家族の介護、盲導犬や障害者の生活を題材にしたもの。動物が犠牲になっている海洋ごみの問題や捨て猫や捨て犬についてのものなどがあつた。原爆の恐ろしさや戦争の中を強く生き抜いた人々や家族を題材にしたもの。人物記では、男女差別と闘った人の伝記から、オリンピックやパラリンピックの選手や関係者を取材した人物記まで様々であった。

審査を通して感じたことは、図書と自分自身の経験や考えを結びつけたり比較したりすることで、新たな考えを見出したりより深く自分自身を理解したりしている作品が多く見受けられたということである。物語の主人公が挫折を克服し努力する姿から、自分自身のスポーツや習い事などへの取り組み方を見つめ直し、思いを新たにしている作品。障害のある家族へどうかかわるべきか、登場人物と自分を比較し、葛藤しながら自分なりの答えを見つけていく作品。差別や環境、戦争といった大きなテーマについて、自分と身近な事柄と結びつけ、自分のできることに真剣に考えたり行動したりしたことが伝わる作品などに、深く心を動かされた。

感想文を書く上で、表現方法にも様々な工夫が見られた。表紙の絵や写真、本の題名などから想像を膨らませ、思わず手に取ったという作品。自分自身の経験や家族などの紹介から書き始め、本との出会いに心動かされたことを書いた作品。心に残る言葉を引用し、読み手の心を引き付ける作品。本の内容と自分自身の経験や葛藤、心の変容を無理なく重ねたり絡ませたりして構成を工夫している作品など、読み手に分かりやすく効果的に伝えたいという書き手の意図が十分に感じられるものであつた。

精一杯に自分の考えを述べ、工夫された作品が多い中で、

いくつか課題もあった。あらすじの紹介が多く、自分自身の経験や考えなどの感想の部分が少ないもの。逆に自分自身の経験や考えは多く語られているが、本の内容との結びつきがあまり感じられないもの。本の内容についての感想が一般論を述べているだけに感じられるものなどである。作品をよりよいものにするには、本の内容と自分自身の経験や考えの変容などをしっかりとバランスよく結びつけて、一貫性のある文章を書くことが大切である。

読書をすることで、様々な人生を疑似体験したり多くの知識や考え方を身に付けたりすることができる。読書感想文を書くことは、それらを自分の心というフィルターを通して理解し、自分自身の弱さや課題に気付いたり自分にとって大切なものに改めて気付いたりすることにつながる。読書感想文を書くことは大変なことではあるが、本との出会いによって生まれた自己の変容や高まりを素直に言葉に表すことで、いつまでも忘れないようにしてほしい。

これからも、みなさんが多くの本と出会い、さらに心豊かな人間に成長されることを願っている。

●課題読書

今回、課題図書部の部県審査対象となった作品は四十四編で、学年別では、五年生が二十編、六年生二十四編であった。これを図書別に見ると、

『ぼくとニケ』	十一編
『かべのむこうになにがある』	二十四編
『マンザナの風にのせて』	四編
『もうひとつの屋久島から』	五編

であり、作品数に偏りが見られた。作品の多かった図書は、自分に置き換えて捉えやすいことや、自分の経験や生活と重ね合わせながら読み進められる内容であったと思われる。四編の課題図書について、それぞれの感想をまとめると次のようになる。

『ぼくとニケ』

玄太の幼馴染み仁菜が拾ってきた生まれたばかりの子猫「ニケ」。玄太の家族に受け入れられ幸せに過ごすニケが、徐々に元気を無くし、動物病院で治療の施しようのない病だと診断されてしまう。ニケを家族のように世話していた玄太、仁菜やその家族が病をどのように受け止め、判断していくのが物語に描かれている。児童の作品からは大きく二つの捉え方が見られた。一つ目は動物を飼う責任の重さである。社会に捨て猫・犬の多い現実、自分の飼

方や動物への接し方について、本から考えさせられた思いが素直に文章に表わされていた。二つ目は命の最後の迎え方である。獣医師から残り少ない命だと告げられた子猫。読者である児童は登場人物に自分をなぞらえ、命の終わり方について自分なりの意見を述べており、考えに深まりが見られた。

『かべのむこうになにがある』

いつからあるのか、どこまであるのか、誰も知らない、知ろうとしない大きな赤い壁。小さなねずみがいろいろな動物にたずねても、否定的な返事ばかり。そんなねずみが、飛んできた青い鳥と壁の向こう側へ行き、新しい世界を知る絵本である。物語に出てくる赤い壁が何を意味するのか、壁を越えることはどういうことなのか、自分の経験や生活と重ね合わせながら自分なりに考え、これからの自分はどうかありたいかが素直に表現されていた。

『マンザナの風にのせて』

第二次世界大戦中のアメリカ、日系人マンザナ強制収容所での生活を背景に、マナミが失った「声」と、生きることの「勇気」を取り戻すまでの日々が、マナミの視点で語られている。児童は、マナミの悲しみや後悔、怒りに寄り添うことで、一度は失った声を取り戻す心の変化を読み取っていた。私たちが自分の気持ちを表す言葉は、人を脅かすものになり、反対に勇気を与えるものにもなる。それらを自分や家族の経験に結び付け表現しているものが多かった。また戦時下においては、直接戦闘に係わりのない市民までもが不当な扱いを受けていたことなどを知り、戦争の理不尽さ、そして、二度と戦争を起こしてはならないという思いを強く表した作品も見られた。

『もうひとつの屋久島』

日本で初めて世界遺産に登録された屋久島に移住した筆者が取材を重ねたノンフィクション小説。屋久島での生活、屋久杉やウミガメなどの自然、その自然をどのように守っているかなど筆者が取材をすすめていく中で、広大な原生林が伐採されていたという歴史を知る。屋久島の歴史を読み進めていく中で、自分自身が問題から目を背けないこと、自分の意見を持ち、伝えることの大切さについて考えた作品が多く見られた。

●指定読書

今回、指定図書の一部の県審査対象となった作品は三十三編で、これを図書別に見ると、次の通りである。

『しあわせの牛乳』 三十九編

『よりみち三人修学旅行』 七編

『野生のロボット』 七編

自分の経験や生活・知っている地域などと結びつけて書かれた作品には、引きつけられるおもしろさがある。また、ある方向からだけでなく、別の方面から考えている作品には、深みがある。そのおもしろさや深みをもった作品がたくさんそろっていた。

三編の指定図書について感想の傾向をまとめると、次のようになる。

『よりみち3人修学旅行』

さまざまな理由で修学旅行に行けなかった小学校を卒業したばかりの三人のクラスメートが、ふとしたことから、三人だけの修学旅行に出かける。

修学旅行という言葉が身近な高学年の児童が手に取りやすい話だったようだ。難しい課題を達成しなければならぬという子ども三人だけの旅行に、一緒に出かけている気分になって一喜一憂したり、性格の違う「天馬」「柊」「風知」と自分との共通点を探したりしているものが多かった。「結果が全て」という風知の父の言葉に、過程が大事だと語っているもの、友達と意見をぶつけ合って仲良くなっていくことや離婚や養育費、子どもの親切心を利用した不審者について自分の思いを書いているものもあった。

『しあわせの牛乳 牛もしあわせ！おれもしあわせ！』

岩手県にある、一年を通して牛が山で放牧されている日本でもめずらしい「なかほら牧場」の牧場長の中洞正さんが、なぜこんな牧場をつくったのかについて説明されている。

児童は、「近代酪農」が多いことに驚いていたり、「山地酪農」と「近代酪農」のメリットやデメリットについて考えていたりするものが多かった。そこから、今まで何気なく飲んでいた牛乳やその他の食べ物のことをこれから感謝していただくという思いにも繋がっていた。また、中洞さんが夢を持ち続けたことや努力を続けたことなどに触れて、自分の生活に生かしたいという感想も多く見られた。

『野生のロボット』

この物語を読んだ人は、ロボットのロズが好きになる。「暴力がふるえないようにプログラムされて」いるロズは、周りにいる動物をよく観察し、動物の言葉をしゃべり、行動をまねする。何より周りの動物に優しく接し、大切にす。また、この物語を読んだ人は、ロズを尊敬し、ロズのようになりたいと願う。ロズの素直なところや工夫し挑戦するところ、みんなのために何ができるかを考え行動に移すところなどを学びたいと考えている。

成長したロズの息子ガンのキラリの言葉が心に残っている人がいた。「うちは変わった家族だね。でも、ぼくはけっこう気に入っている。」最初、ロボットというだけで、他の動物たちは、ロズから距離を取る。それを差別ととらえる人がいた。だが、ロズは、屈しない。そして、キラリも自分の感じるままにロズを信頼し、愛している。ロボットとガン、血はつながらなくても本物の親子に間違いない。家族のありようを考える人もいた。こわれたロズが、飛行船に乗り島を離れている場面で、この物語は終わる。しかし、きっと近い将来、キラリの元にロズが戻ってくると誰もが信じているようだ。

自由読書の審査概評

三宅 雅之

課題読書の審査概評

河田 かおり

小池 恭子

指定読書の審査概評

酒井 恭子

中村 国広

中学校の部

●自由読書

本年度、県審査に出品された作品は九十四編であった。学年別に見ると、一年生から十九編、二年生から二十八編、三年生から四十七編が出品されていた。残念ながら県審査にあがってこなかった感想文を踏まえると、県下の応募総数は二万二千二百六十九編にも上る。中学生の読書感想文に対する関心の高さが伺える。

自由図書には、様々なジャンルの本が選ばれる。スポーツ、平和・戦争、生命、夢・仕事、家族・友人などの人とのつながり、人物記、自己啓発などである。LGBTや障がい者の社会参画に関する本も読まれており、社会の関心の高まりに合わせて、選定される図書も移ろっていることが分かる。今を生きる中学生の読書の幅広さを知ることができた。また、選ばれる本としては、話題になったベスト

セラーや映像化された原作、有名人の自伝的な本などが目立つ。他にも、過去に課題図書となった作品や、家族、先生から勧められたことをきっかけとして本が選ばれている。これからも、豊かな本との出会いをしてほしい。

いずれの作品も読書を通してこれまでの自分を振り返り、さらに高めていこうという前向きな姿勢や、本への熱い想いが伝わってくるものであった。印象に残るのは、今を生きる中学生の等身大の悩みが浮き彫りになっていく点だ。将来への不安や、現在打ち込んでいることがうまくいかないことへのもどかしさ、家族や友人との関わりの中で揺れる心情が綴られていた。各々が登場人物の境遇や心情を自分に重ね合わせ、登場人物に共感したり、時には自分ならこうするだろうと別の選択を示したりしている。読書を通して自身に降りかかっている悩みや逆境を解決しようとしている。そういった姿に頼もしさを覚えた。

文章の構成や表現としては、全体として、作者の伝えたいことの中から着目する点を抜き出し、感想を書くことができる作品が多かった。あらすじの量は最低限にとどめ、工夫を凝らした導入や結びが見られた。文章としての強い魅力をもった作品が優秀作品として選ばれている。

課題としては、自身の体験を語ることに軸が傾いてしまい、読書感想文とは呼べないような作品になってしまっていることや、独語の自分の考えが一般論に終わってしまうことがある。また、述べたい事柄が複数ある作品は伝えたいことが絞られておらず、感想文全体として散漫とした印象になってしまうという課題もあった。読書体験が、自分にどういった影響を与え、自分の中にどんな変容があったのかを読後にしっかりと整理する必要がある。

全体的に見て、自分の考えや思いを素直に表現できている作品が多く、好感が持てた。本の中の世界を見つめると、ふと、自分の生きる世界をも見つめ直していることに気づく。これからを生きる中学生には、読書を通して、自分の生きる世界を豊かにして欲しい。また、読書感想文を書くことを通して、自分の考えを整理し、表現し、伝えていくことの楽しさを知って欲しいと考える。

●課題読書

今年度の課題図書は『星の旅人：伊能忠敬と伝説の怪魚』『ある晴れた夏の朝』『サイド・トラック：走るのニガテナボクのランニング日記』の三冊である。県の審査対象となった感想文は全部で四十六編。その内訳は『星の旅人』は二編、『ある晴れた夏の朝』は三十六編、『サイド・ト

ラック』は八編であった。また、学年別では、一年生が十一編、二年生が十三編、三年生が二十二編であった。

『星の旅人：伊能忠敬と伝説の怪魚』は、蝦夷地で測量隊に参加していた父の事故死を信じなかった少年平次が父を探すため、伊能忠敬の測量隊一行に入り、測量の手伝いをしながら蝦夷地を旅する話である。出世のために父に教えられた算術で自分の力を認めてもらいたい平次に伊能忠敬は学問をする上で大切なことを説く。伊能忠敬の偉業である日本地図誕生までの地道な作業を史実に触れながら、平次の成長と父の真相が描かれている。

感想文の内容としては、伊能忠敬が平次に語った学問をする上で大切なことをふまえて、部活動の体験から失敗をおそれず努力することや挑戦することの大切さに気づいたもの、平次の言動から自身の将来なりたい職業について改めて考えたことなど、自分自身の体験と登場人物の気持ちや行動と重ね、これから先どう生きていきたいかが実直に書かれていた。

『ある晴れた夏の朝』は、二〇〇四年のアメリカが舞台である。日系アメリカ人のメイは、ハイスクールの先輩に誘われて、戦争と平和について考えるというテーマの公開討論会に出場することになった。広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非について高校生八人で肯定派、否定派に分かれてディベートを行う。メイの他に、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのメンバーのルーツはさまざまであり、それぞれの置かれた立場から肯定派、否定派双方の激しい議論が繰り広げられていく。

感想文の内容としては、広島の平和学習での経験や、世界で唯一の被爆国という立場で原爆投下否定派という意見がほとんどであった。しかし、作品中の肯定派の意見を読んでいくうちに自分とは異なる意見を知り、相手の立場でものごとをみるのが相手を理解すること、それが真の平和につながるという展開が多く見られた。

『サイド・トラック：走るのニガテナボクのランニング日記』はADD(注意欠陥障害)を抱えている主人公ジョセフが、スポーツが苦手なのに陸上クラブに入り、クロスカントリー走に挑戦する話である。困難なことが次々と起こるたびに心が折れそうになるが、監督や仲間たちに励まされ、成長していく姿が描かれている。

感想文の内容としては、主人公が仲間にも助けられたという内容から自分も同じように部活動の中で仲間を支えられた経験と重ね合わせて述べたもの、ADDについてきちんと理解することで一つの個性としてとらえ、尊重し支え合っ

いくことの重要性を述べたもの、主人公が努力を重ね、諦めない心を学んだ内容から自身の中学受験の経験とを重ねたもの、また、監督の言葉「自己ベストを出す」と言ったことから自分自身に打ち克つことの大切さを述べたものなど多岐に及んだ。

●指定読書

今年度の指定図書は、『明日のランチはきみと』『みんなちがって、みんないい』『ヴンダーカンマーここは魅惑の博物館』の三冊である。県の審査対象になった感想文は全部で三十九編。出品数の内訳は、『明日のランチはきみと』十七編、『みんなちがって、みんないい』十七編、『ヴンダーカンマーここは魅惑の博物館』五編であった。また、学年別では、一年生十一編、二年生十四編、三年生十四編であった。

『明日のランチはきみと』は、APDという障害をもつジョーと、インドからの転校生ラビが、いじめに立ち向かっていく話である。二人は真逆の性格だが、「思い込み」という共通の壁にぶつかったとき、お互いに補い合える仲間として強い絆で結ばれた。いじめに立ち向かう二人に共感し、作中の「思い込みはたいていまちがっている。」という先生の言葉を軸に、自分自身を振り返って書かれた感想文が多かった。

しかし、悪役かと思われたディロンにも、実は人種差別という壁があったことから、単なる子ども同士のいじめの話だけではないことに言及している感想文もあった。この話を通して、社会のゆがんだ構造に気付けたなら、一段高い視点で世界を見ることができたことだろう。これからも、「思い込み」をなくし、多様な見方ができる力を磨いてほしい。

『みんなちがって、みんないい』は、生まれつき右腕が短いという障害を克服し、パラリンピックの選手として活躍する、重本沙絵さんが主人公である。高校までハンドボールの選手として健常者に混じってプレーをするために血のにじむような努力を惜しまなかった重本さん。その不撓不屈の精神に感銘を受けたという感想文が多く寄せられた。重本さんと自分を比べ、自分の弱さに気付かされたというだけでも、心身ともに大きく成長する中学生の時期に、この話に出会って良かったと思う。

さらに一步踏み込んで、重本さんの伝えたかった「共生社会」の実現について述べている感想文もあった。重本さんが自身の人生を本にまとめようとしたのは、障がい者の現

実、実像を知ってもらうことで、「共生」という考え方を、より多くの人にもってもらいたいと思ったからなのではないか。この本を読んで、重本さんを賛美するだけに終わらず、共生社会に生きる一員となることを考えてもらいたい。

『ヴンダーカンマーここは魅惑の博物館』は、博物館に五人の生徒が職場体験に行く話だ。博物館には個性豊かな職員が働いていた。希望していた職場ではないので、五人はやる気もなく職場体験に臨んだ。しかし、担当職員とのやり取りや、仕事を通して、皆成長していく。中学生は二年生で職場体験を経験するため、働くことの大変さと仕事を任されるやりがい、人に思いを伝えることの大切さなど、普段味わえない気持ちに共感しやすいようだった。感想文では、五人の中で自分が最も共感できる人について深く読み込んでいるものや、五人それぞれの体験を取り上げてまとめられたものなど、書き方に工夫がみられた。一人ひとりの成長と、自分の内面を重ね合わせ、追体験することで、自分自身の変えていきたいところを分析している感想文もあった。五人バラバラの体験や思いが、一人の読者の中で一つとなって語られる様子は大変興味深かった。

物語の登場人物の生き様を自分自身の成長の糧とすることは、読書の醍醐味の一つであるが、今年度の指定図書三冊は、どれもそれを味わうことのできる本だったと言える。どの本にも、書かれた意味や作者・著者の思いが込められている。中学生という多感な時期だからこそ、それぞれの本のメッセージを受け止められやすいと言えよう。一度読んで感じたことだけでなく、もう一度、読んでみることで、また違った視点からのメッセージが見つかるかもしれない。一段高く、あるいは、一層深く読み味わえるかもしれない。今回の県審査を通して、そう感じた。

高等学校の部

●自由読書

自由読書の部は、課題図書以外の作品を読んだ感想文すべてを扱う。そのジャンルは、小説や詩、短歌・俳句、評論文やノンフィクションなどあらゆる分野にわたる。本年度、自由読書の部には、県審査へ41校から259編の応募があった。応募数は昨年より30編近く減少した。学力だけではなく総合的な理解力と思考力、感受性を養うためにも、夏休みの課題として読書感想文に取り組み、多くの学校に県審査に応募していただきたい。

県の審査をしていると、毎年、生徒の読書傾向が知れて

興味深いのだが、近年は読書傾向も多様化し、高校生の定番と言われる作品に感想文が集中することも少なくなってきた。

今年、目についたのは、4年前に『君の臍臓をたべたい』でデビューした住野よるの作品を取り上げたものが多かったことである。『また、同じ夢を見てい』『よるのぼけもの』『青くて痛くて脆い』『麦本三步の好きなもの』など、高校生に好んで読まれていると思われる。一時的な流行で終わるのか、重松清や森絵都、あさのあつこ、辻村深月、有川浩など、感想文の常連作家になるか、今後、注目していきたい。

また、ここ数年のことではあるが、「いじめ」がその本の主たるテーマではなくとも、物語のきっかけであったり、感想や意見の中で言及していたりと、「いじめ」について述べられる感想文がかなり多く感じる。学校での「いじめ」認知件数が昨年度、過去最多であったことからわかるように、当事者であれ傍観者であれ、「いじめ」問題は高校生にとって身近で大きな問題だと言えるのであろう。

審査基準の一つに「作品の語っているものを的確にとらえているか」という項目がある。その本がテーマとしている問題に向き合った感想文であることが必要となるのだが、ここを外しているものが少なくない。登場人物の置かれた状況だけとか、ある一つ二つのセリフだけとかをクローズアップして、あとは大部分が自分の考えを述べているものである。作品のストーリーから離れてしまい、読書感想文ではなく、意見文になっているため、評価がかなり低くなってしまふ。もっとストーリーに寄り添った感想文を心掛けてほしい。

本年度の最優秀に選ばれたのは相坂陶子さんの「色を失った私——『コンビニ人間』を読んで——」である。行きすぎた「あたりまえ」が人の個性を殺してしまう現代社会の在り方への考察が、広い視野からなされた深いものであった。そこから、変わってしまった今の自分に気づき、自分らしく生きたいという意識の変革にいたる文章構成も整っており、高く評価された。

優秀作品の關琴乃さんの「『王とサーカス』を読んで」は、ミステリー作品ではあるが題名にも関わるテーマ、ジャーナリズムの意義を自分自身に引きつけながら、しっかりと考察できていた。田邊夏鈴さんの「『日日是好日』を読んで」は、作者の言葉に感性で共感できたことを素直に表現しており、読書の喜びがよく伝わってくる感想文となっていた。和田倫奈さんの「私たちが望む未来——『バリ

アフリーを作る』を読んで——」は、介護用品をデザインするという作者の視点に触れて、今までの自身の人に対する接し方を振り返るという姿勢がとてもよかった。熊城円香さんの「『檸檬』を読んで」は、内容の分析をきちんと文中の言葉に即しておこなっていて説得力があった。分析だけに終わらず、最後に共感をもって結んでいる点もよかった。小島梨紗子さんの「『コンビニ人間』を読んで」は、社会では「異物」である主人公を自分に引きつけて考え、しっかりと自分自身と向き合おうとする姿勢が素晴らしかった。小川萌華さんの「人と繋がり、時を繋ぐ」は、作者の戦中戦後の体験に触れて、苦しみの中でいきいきと懸命に生きる姿に対する感動が、巧みな文章力によってよく伝わってきた。井上奈々子さんの「『評価』について思うこと——『何者』を読んで——」は、主要登場人物である理香に自分を重ね合わせることで、「評価」に固執してしまう自分自身としっかりと向かい合うことができていた。山本結菜さんの「心の小さなあかり～『ちいさなちいさなベビー服』から～」は、本を通して感じた命の大切さと心の支えの必要性が素直な言葉で表現できている。なにより選んだ本の良さが感想文の後押しをしてくれている。

多感な高校時代に、視野を広げ、思索を深めてくれる素晴らしい読書体験をしてほしい。そして来年度も県審査への多数の応募を期待している。

●課題読書

最近1年以内に発行された新しい本から、SLAが選んだ3作品の課題を読んでから書くもので、自由図書とは別に審査される。今年は41校から92編の応募があった。(昨年度は、23校から64編の応募であった。)

応募作品の内訳は『この川のむこうに君がいる』が37編、『ザ・ヘイト・ユー・ギブ：あなたがくれた憎しみ』が24編、『ヒマラヤに学校をつくる：カネなしコネなしの僕と、見捨てられた子どもたちの挑戦』31編であった。『この川のむこうに君がいる』がやや多かった理由としては、昨年の西日本豪雨の影響もあったためであろう。

本年の最優秀作品に輝いたのは、『この川のむこうに君がいる』を読んだ武村優希さんの作品である。昨年の西日本豪雨で武村さん自身も寄付をした体験を通して、相手を助けたいと思うことが、与える側と与えられる側という上下関係を知らず知らずのうちに生み出していくのではと悩み、大切なことはともに寄り添う気持ちであるということだということにたどり着くまで、作品に真摯に向き合うことの

できた作品である。

優秀賞四編のうち3編は『ヒマラヤに学校をつくる：カネなしコネなしの僕と、見捨てられた子どもたちの挑戦』を読んだのものである。荻野夏実さんはこの本を通して、今まで荻野さんが考えていた「当たり前」の基準が、世界では全くことなることに気づき、人権侵害の問題を他人事ではなく、自分事としてとらえようとした作者の吉岡さんに深く共感している。そして、将来は英語を学び、様々な国の人々の幸せに貢献できるような人材になりたいと考えている荻野さんにエールを送りたい。

岡緒未さんは、日ごろから派遣医療を研究テーマとし、日本の高い医療技術を世界中に届けたいと考えている。その壁になっているのが「宗教や価値観の違いを乗り越えることの難しさ」である。この本を通して、医療と共に教育の重要性に気付くことができていた。自分の研究に大きなヒントを与えてくれたこの本の存在について素直な思いが述べられた作品である。

森聡子さんは、作者吉岡さんの、人を引き付ける行動力や人間性に引き込まれていく様子を素直に表現している。また、彼のご両親の子育てについても注目しており、この点は他の読者にはない着眼点であった。森さん自身の、小学校の教師になりたいという将来の夢についても溢れる思いが伝わっている、意欲的な作品である。

小原知也さんは、『この川のむこうに君がいる』を読み、登場人物の言動を通して自らの振り返りを行うところに小原さんの誠実さが伝わってくる。また、毎月11日を家族とともに防災について考える日にしているなど、月日の経過によって人々の関心が薄れることを危惧するだけでなく、防災に対して様々な試みを考えているところも素晴らしい。

今回は3作品を通じて、人権侵害や差別について、また社会的弱者に対してどのように寄り添うべきなのかということに真摯に向き合った作品が多かった。日ごろ当たり前のように過ごしていることは、実は当たり前ではなく、奇跡であることに気づいた生徒も多かった。また、知らないどこかで知らないだれかが苦しんでいること、それに気づいた人はどうすべきことなのか、そのことを深く考えたり、悩んだりし、自分なりの結論を導き出した作品が多かったように思う。今後も様々な作品を読み、悩んだり、考えたりしていってもらいたい。

岡山県立邑久高等学校 若狭 真司
課題読書の審査概評

岡山龍谷高等学校 山下 敦子

自由読書の審査概評

第31回読書感想画岡山県コンクール

I 日程

- 6月13日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 12月19日(木) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局 *小学校…岡山市立建部小学校
宮尾 勅香
*中学校…倉敷市立多津美中学校
藤井 雅美
- 1月8日(水) 応募締め切り(必着)
*高校…岡山県立倉敷古城池高等学校
末吉未加子
- 1月10日(金) 小学校の部審査(岡山市立建部小学校)
中学校の部審査(倉敷多津美中学校)
高等学校の部審査
(岡山県立倉敷古城池高等学校)

II 県審査員

- 県SLA会長 高槻 信博 岡山県立倉敷青陵高等学校長
副会長 山本 義人 岡山市立千種小学校長
" 水畑 法生 岡山市立高松中学校長
審査委員 山下 真季 岡山市立大野小学校
" 真賀 典子 岡山市立牧石小学校
" 田村 敬子 岡山市立南輝小学校
" 有森 満美 岡山市立太伯小学校
" 古谷 浩子 岡山市立操明小学校
" 中野 博充 岡山市立東疇小学校
" 難波伊津美 岡山市立福島小学校
" 田中 満史 岡山市立馬屋下小学校
" 上岡 弘明 岡山市立庄内小学校
" 山崎 博之 岡山市立竜口小学校
" 宮尾 勅香 岡山市立建部小学校
" 小林 直人 岡山市立建部小学校
" 由島 浩恵 岡山市立建部小学校
" 金島ゆかり 岡山市立建部小学校
" 稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校
" 岩井 佑樹 岡山市立岡山後楽館中学校
" 藤本 久美 倉敷市立東中学校
" 川井 益美 倉敷市立多津美中学校
" 藤井 雅美 倉敷市立多津美中学校
" 真賀 芳郎 岡山市立瀬戸中学校
" 渡辺 枝里 倉敷市立南中学校
" 松永美紀子 倉敷市立北中学校
" 澁谷奈津子 岡山市立高松中学校
" 河本 昭政 岡山県立岡山朝日高等学校

- 審査委員 高取 亨一 岡山県立瀬戸高等学校
" 新谷 浩二 岡山県立倉敷南高等学校
" 中江智恵子 岡山県立笠岡商業高等学校
" 太田 淳 岡山県立倉敷古城池高等学校

III 結果

1) 応募作品数・応募学校数

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
小学校	821点/26校	1,137点/26校	850点/23校
中学校	93点/17校	109点/13校	115点/10校
高等学校	30点/8校	36点/8校	62点/11校
計	944点/51校	1,282点/47校	1,027点/44校

2) 最優秀賞受賞者

小学校低学年の部・自由

- 倉敷市立連島西浦小学校 3年 沖 かの子
岡山市立福田小学校 2年 堀 桜輔

小学校低学年の部・指定

- 新見市立神代小学校 1年 眞治莉央奈
岡山市立第一藤田小学校 1年 田中 佑一

小学校高学年の部・自由

- 倉敷市連島西浦小学校 6年 沖 メイ子
岡山市立大野小学校 4年 浮田 尚貴

小学校高学年の部・指定

- 倉敷市立中庄小学校 5年 小野 優心
新見市立神代小学校 4年 藤木 美歌

中学校の部・自由

- 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 2年 三原 初子
倉敷市立多津美中学校 2年 中島 望未

中学校の部・指定

- 倉敷市立北中学校 2年 栗原 恋歌
倉敷市立北中学校 1年 松嶋 和泉

高等学校の部・自由

- 岡山県立岡山朝日高等学校 2年 藤原 彩音
岡山県立倉敷中央高等学校 2年 山田真理子

高等学校の部・指定

- 岡山県立邑久高等学校 3年 山根 楓
岡山県立倉敷中央高等学校 2年 小木曾 ひなの

3) 第31回読書感想画中央コンクール入賞者

小学校高学年の部 自由図書 優良賞

- 倉敷市立連島西浦小学校 6年 沖 メイ子

IV 審査の結果

【小学校の部】

岡山市立建部小学校 宮尾 勅香

○ 審査事務の流れ

第31回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は23校と前年度並、応募作品総数は昨年度より減少し850点であった。そのうち、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品78点が県コンクールに出品された。

審査会は、1月10日（金）に岡山市立建部小学校で行われた。図画工作・国語等に造詣の深い15名の先生方にお集まりいただき、厳正かつ慎重に審査をしていただいた。

司書の尽力により、感想画の図書がアイウエオ順に並べられ、参考図書が傍らにあることで内容や挿絵の模写などの確認がスムーズであった。模写については、各校で、指導の段階で応募の決まりや趣旨などを指導者がしっかりと把握しておく必要があると感じた。

3学期はじめのご多用の中、ご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げます。

	自由読書	指定読書
最優秀	低2点 高2点	低2点 高2点
優 秀	低6点 高6点	低6点 高3点
入 選	低14点 高11点	低10点 高2点

【最優秀作品】

自由読書・低学年



指定読書・低学年



自由読書・高学年



指定読書・高学年



○ 審査概評・今後の課題等（※審査員の声を総括）

【発達段階】

・低学年の作品はお話の中に自分も入り込み、楽しさが伝わってくる作品が多かった。高学年になると、構図や色づかいを工夫し、思いが伝わるような見応えのある表現が印象的であった。

【指導法】

・授業の中で読書感想画を年間計画の中に組み込ませるのは厳しい面がある。何らかの工夫が必要ではないか。

・作品をかく前に、しっかりと思いを膨らませてやるのが大切である。また、その思いを表現できる技法を身に付けさせておくことが必要である。

・挿絵を参考にしたり、そのまま用いたりしていることがあり、残念である。本を読んで自分が感動したことを工夫しながら表現できるように指導したい。本を読んだ後に友達と感想を交換したり共有したりするのも良い方法ではないだろうか。

【審査について】

・審査員のメンバーの中にベテランの方々がおられ、絵の見方や指導方法などの話が聞けたのも有意義であった。

・絵画教室で描かれていると思われる作品や大人の手が加わっていると思われる作品についてどう審査すべきか悩ましい。

【募集について】

・読書感想文は苦手であっても絵に表すと生き生きと感動を表現することができる子どももおり、それらの児童にとって夏休みというじっくりと取り組める時期に募集があるとさらに作品数が増えていくのではないかと期待している。

・読書感想画に取り組むことにより、伝え合う力、想像力、表現力、読書に親しむ態度など今後一層求められ、様々な能力や態度の育成が期待できる。このコンクールの趣旨やよさを一層啓発し、各学校で積極的に取り組み、本コンクールが一層、発展・充実していくことを期待している。

【中学校の部】

倉敷市立東中学校 藤井 雅美

○ 審査事務の流れ

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品が、コンクールに出品されました。

本年度は、参加校10校、全応募作品数115点、県コンクールへは57点の作品が応募されました。

審査会は1月10日（金）午後2時から、倉敷市立多津美中学校図書館にておこないました。県内の国語科・

美術科担当の9名の先生方に審査をお願いし、厳正な審査の結果、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。審査を担当して下さった先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

○審査概評・作品について

・今回は指定図書作品が全体で6点しかなく、出品数の総数を増やすことが急務に思われる。審査会は、国語科と美術科の両方で、それぞれの立場の視点を聞きながらの審査ができ、とても勉強になるものでした。

・年々課題図書の作品の方が少なくなっている。今回は、1年生の作品が多かったと思う。時期的に夏休み前に制作できる時期であれば3年生も作品応募できるのではないかと。鉛筆、ペンで描いた作品が入るなど周りと違うので目を引いた。良い作品が多かった。逆に切り絵やコラージュといった技法を使った作品はなかった。

・読書感想画で一番大切なことは何なのだろうかと思われ、考えさせられた。子ども達の取り組む姿勢の素晴らしさと熱意に感動した。裏面の指導が必要なのだと知った。

・指定図書の作品数が少ないので作品のレベルが自由図書とかなり違っているのが気になりました。今回はイラスト的な作品は少なかったと思いますが、描き込みがもう少しできていたらという作品が多かったように思います。薄い色で全体をまとめているものは印象に残りにくいと思いました。選ぶ本もライトなものより、ちゃんとした本の方が表現の幅が広がると思いました。

・まずは文章をしっかり読みこみ、内容を自分なりに解釈することが大切だということで、それぞれの作品の世界観が表現されているかどうかを審査するのが難しかったです。画力はもちろん、文章とどう結びついているか、どの部分を表現しようとしているか、それが伝わってくるか、などポイントはいくつかあるので、想いが伝わってくるもの、内容がイメージしやすいものを選びました。絵の構図や色の濃淡、色使い、塗り方など、様々な工夫が見られ、楽しく審査させてもらいました。

・出品作品と出品校が少ない印象があった。私自身、部活で取りませようとしたが、時間が足りなかった。取りませるにあたって、“本を読む”→“絵を描く”という長期の時間が必要で、募集が始まってからでは間に合わないと思う。

・絵にするとき、抽象的な全体の印象を描くのではなく、ある場面を決めて、自分が受けた感想を加えて構図を工夫して描いたり、あるいは感想そのものをふくらませて主題を明確にして描くなど、様々なチャレンジを試みて下さい。

◇ 今年度は参加校が減少しましたが、全応募作品総数は昨年度と同数でした。参加作品が少なくても応募

して下さる学校もあるので、たとえ作品が少なくても応募していただき、さらに参加校が増えることを期待しております。また、指定図書作品の応募数が少ないとの声が多く聞かれ、生徒が夏休みを利用して読書や作品制作に励むことができるよう、指定図書の発表を早くして頂きたいとの要望がありました。審査を行う過程では、国語科・美術科の両方の視点から意見交換をすることができ、貴重な研修の機会となりました。

今年度もコンクールに応募・参加して下さった多くの学校の先生方に御礼申し上げます。来年度も、さらに多くの学校や生徒の皆様が、このコンクールに取り組んでいただけるよう、ご協力よろしく願いいたします。

【最優秀作品】

自由読書



指定読書



【高等学校の部】

岡山県立倉敷古城池高等学校 太田 淳

○審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県S L A事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配付し、支部内の各校への要項配付と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配付され、指定図書が発表された。『徳治郎とボク』（花形みつる・著）、『南西の風やや強く』（吉野万理子・著）、『マレスケの虹』（森川成美・作）、『子犬たちのあし

た：『ロンドン大空襲』（ミーガン・リクス・作、尾高薫・訳）、『これからを生きる君へ』（天野篤・著）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月8日（水）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

〈コンクール応募総数〉

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
10校	36点	4点	40点

岡山県コンクール審査会は、1月10日（金）、倉敷古城池高等学校の会議室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名（備前支部2名、備中支部2名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し、作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがなく、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認し、厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書2点、計4点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

〈受賞作品数〉

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	2点
優 秀	3点	1点
入 選	11点	1点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・今までになく、作品のレベルに差がなく、選考に苦労した。
- ・入選以外の作品は少し絵として弱い。何を描きたいのかねらいをはっきりさせると良くなると思われる。
- ・ストーリーの中の一場面というよりも、自分だからこそ描ける世界観のようなものが表現されているものに、感想画としての意味の深さがあるのだと思う。最優秀賞となった作品は、どれもその点が素晴らしかった。
- ・読後の感動をどう視覚化していくか工夫のしどころである。
- ・活字中から読み取った“本の心情”を新鮮な感性で受け止め、それぞれの発想力で目に見える画像へと昇華している。その発想力や変換させていく中で、それぞれの生徒のそれまでの人生で生きてきた経験やその時代を反映するモチーフが絵の中に登場することになり、絵画作品としての質が高められていくように感じる。

- ・読書をして、強く感動すればするほど、素晴らしい作品が出来ると思うので、興味を持った本をしっかり読んでもらいたい。
- ・応募作品が増え、作品のレベルも全体的に上がってきているように思う。
- ・県北からの応募や、過去に出品がなかった学校からの応募もあって良かった。

【最優秀作品】

指定読書部門 最優秀賞



「虹を魅て」



「君のためなら」

自由読書部門 最優秀賞



「幸運」



「静かな祈り」

絵 本 研 究 部 会

中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

1. 令和元年度の活動状況

本年度は22年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマで特にかこさとしさんの絵本を中心に研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り、報告し合いました。

また、かこさとしさんの絵本とともに歴史的背景やかこさとしさんの人生について研究し、読み継がれる理由や絵本の魅力について考え、話し合いました。その成果を県大会で発表しました。

紹介文研究も引き続き進めており、毎年発行している「読み聞かせたい絵本」はNo36を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第4条2項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活動

①毎月に関く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約10名とし、幼稚園・小学校・

3. 令和元年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	山本 義人	岡山市立千種小学校長
事務局長	酒本 薫	岡山市立江西小学校教諭
研究員	六車 美加	岡山市立平井幼稚園教諭
〃	篠 崇敏	岡山市立鹿田幼稚園教諭
〃	難波 真	倉敷市立庄中学校教諭
〃	遠藤 裕美	倉敷市立南中学校教諭
〃	山本 泉	岡山市立後楽館高等学校教諭
〃	高槻 美保	岡山県立玉島商業高等学校教諭
〃	岡部 香	岡山県立倉敷商業高等学校

4. 今年取り組み

今年度はかこさとしさんの絵本を中心に研究してきました。

そして、県大会に向けた1年として、「心をつなぐ絵本」というテーマの元実践を重ねていきました。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと今年度は「読み継がれる絵本～かこさとしを中心に～」をサブテーマとして、研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名	著者	出版社	価格	出版年	実践学年
----	----	-----	----	-----	------

かこさとし作品から

にんじんばたけのパピブペポ

かこさとし 作・絵 偕成社 ¥1,000 1973 幼～小

忘れてばかりいる子ぶたたちが、にんじんを食べたらお利口な良い子に大変身。そこで、みんなで力を合わせて荒れた原っぱをにんじん畑にすることに……。読む年齢によって違ったメッセージを受け取ることができる、かこさんからのたくさんのメッセージが込められています。

とんぼのうんどうかい

かこさとし 作・絵 偕成社 ¥1,000 1972 幼～小

運動会を楽しんだ赤とんぼの子どもたち。その帰り道に、ギャングこうもりが現れます。どのようにしてこの状況を切り抜けるのでしょうか。とんぼの子どもたちが力を合わせ、知恵と勇気をふるいます。世代を超え、長く読み継がれている一冊です。

だるまちゃん と てんぐちゃん

加古里子 作・絵 福音館書店 ¥900 1967 幼～小

だるまちゃん は てんぐちゃん の長い鼻や持ち物がうらやましくて自分も欲しくてたまりません。そんなだるまちゃんを見て、お父さんは代わりになるものをたくさん見つけてきてくれます。その中からだるまちゃんを選んだものは？ 愉快的ストーリーと時間を忘れて見入ってしまう、かこさんの細かい絵が楽しめます。



絵巻じたて ひろがるえほん かわ

加古里子 作・絵 福音館書店 ¥3,000 2016 幼～高

高い山から小さい流れをつくった「かわ」の水は、ゆっくりと平野の村や町をとおり、やがて広く深い、大きい海へと流れ出て……。絵巻じたてのひろがる絵本の『かわ』は表面はカラーで、裏面は黒と水色の2色で印刷されていて両面が楽しみ、科学に親しめるようになっています。

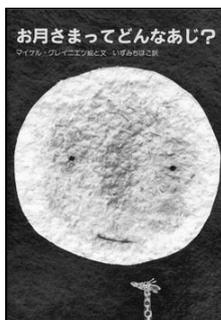


みずとは なんじゃ？

かこさとし 作 鈴木まもる 絵 小峰書店 ¥1,500
2018 小～高

あたりまえのように蛇口から水が出てくる生活の中で、改めて水のことを考えさせてくれる絵本です。水のもつ3つの性質が日常の風景とともに描かれ、科学的な内容もすんなり理解できます。加古里子の遺作となったこの絵本には、地球への、生き物への愛と願いがあふれているようです。

夢のある絵本



お月さまってどんなあじ？

マイケル・グレイニエツ 文・絵 らんか社 ¥1,500
いずみちほこ 訳 1995 幼～小

お月さまの味が気になっていたカメは、一口食べたいと高い山に登りましたが届きません。動物たちが次々と背中に乗りますが、月は上にひょいと逃げます。いったいどんな味なのでしょう。ほのぼのしたやり取りや、紙の風合いを生かした美しい絵で、心温まる絵本です。

環境問題を考える絵本

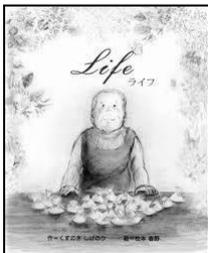


いろのかけらのしま

イ・ミョンエ 作・絵 ポプラ社 ¥1,400
生田美保 訳 2017 小～高

海の真ん中に浮かぶ「いろのかけらのしま」。そこにはウミドリやカメ、オットセイなど、たくさんの海の生き物が暮らしています。色とりどりの物であふれるその島は、どんな島？今問題になっている環境問題が、鳥の目線から描かれています。ダイナミックな構図で広がりを感じるとともに、繊細な筆致が鳥の気持ちとよくマッチしています。

温かな気持ちになる絵本



Life (ライフ)

くすのきしげのり 作 松本春野 絵 瑞雲舎 ¥1,300
2015 小高～高

町の外れにある「Life」という小さなお店。訪れた人たちが、今は必要ないけれど捨てられないものを持ち寄って、気に入ったものを持って帰るリユースのお店。最愛のおじいさんを亡くして悲しみに沈むおばあさんの心に、あたたかな明るい風を吹かせたのは……。人生において大切なことを教えてくれる絵本です。

クスッと笑える楽しい絵本



おなかのかわ

瀬田貞二 再話 村山知義 絵 福音館書店 ¥900
1977 幼～小

欲張りなネコは、友だちのオウムが出してくれたごちそうに飽き足らず、自分よりも大きなものを次々のみこんでいきます。どんどん食べて膨れてくるおなか。「そんなにおなかに入らないよ」と、お話を聞いている子どもたちもドキドキ。最後にどうになってしまうのかは、読んでからの楽しみです。



おしっこちょっぴりもれたろう

ヨシタケシンスケ 作・絵 PHP研究所 ¥1,000
2018 幼～高

もれたろうはおしっこをする前かした後にちょっぴりもれていつもお母さんに怒られてしまいます。お母さんにげんやうにズボンをおかす間、同じようにもれて困っている人を探しに出かけます。さて、もれたろうは仲間に出会えるのでしょうか？クスッと笑えて、小さな悩みが軽くなる、そんなお話です。

写真絵本



このあいだに なにがあった？

佐藤雅彦＋ユーフラテス 作 福音館書店 ¥900
山本晃士ロバート デザイン 2017 幼～高

2枚の写真の間には、いったいどんなことがあったのでしょうか？「なにか」があった部分の写真が、ページをめくるとわかりますよ。いろんなことを想像して、思わぬ答えに笑顔が広がります。推理するおもしろさと喜びを味わえる絵本です。

新しく出会った絵本



だれのパンツ?

シゲリカツヒコ 作 KADOKAWA ¥1,300 2019 幼～中

いつもの帰り道。上の方から落ちてきたヒョウ柄の大きな「パンツ」を持ち主に届けるために入った団地で、タロウは不思議な世界に迷い込んでいきます。写実的で圧倒される絵、奇想天外でテンポのよい展開に、どんどん引き込まれます。



なまえのないねこ

竹下文子 作 町田尚子 絵 小峰書店 ¥1,500
2019 幼～高

表紙のこちらを見上げるネコの表情は寂しげで、何かを訴えかけているように見えます。このネコには名前がありません。お寺のネコに自分で付ければいいじゃないかと言われ、探します。「やじるし」「のらねこ」「あっちいけ」……。ベンチの下で雨宿りをしていると「ねえ。おなかすいてるの？」の優しい声。ネコが本当に欲しかったのは？



字のないはがき

角田光代 文 西加奈子 絵 小学館 ¥1,500
向田邦子 原作 2019 小中～高

字も書けないくらい幼い娘を疎開させた父親は、その子を心配して「元気な日はマルを書いて、一枚ずつポストに入れなさい。」と、宛名を書いたおびただしい数の葉書を持たせました。向田邦子さん一家の、戦争中に実際にあった出来事が絵本になりました。原作は中学校の教科書にも載っています。

優良図書研究部会

るかどうか。

1 活動内容

当部会では、5月、6月、8月、10月、11月、1月、2月の年8回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでみたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなどという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすみたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じてい

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

(4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

(1) 短編集は採用しない。

(2) 多くの合さんのものは採用しない。

(3) 新刊書であること。

(4) 辞典、事典類は採用しない。

(5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

(1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

(2) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

(1) 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

(2) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 山本 義人 岡山市立千種小学校校長

部会事務局長 酒本 薫 岡山市立江西小学校教諭

<部会員>

小学校の部

木下 由布子 岡山市立興除小学校教諭

小川 薫 岡山市立芳泉小学校教諭

山内 祐子 岡山市立牧石小学校

村田 博子 岡山県立図書館総括主幹

村上 詩織 岡山市立灘崎小学校教諭

中学校の部

川井 益美 倉敷市立多津美中央中学校教諭

西川 依里 岡山市立上道中学校

稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校教諭

岡本 大典 倉敷市立琴浦中学校教諭

藤本 久美 倉敷市立東中学校教諭

古市 絵美子 岡山市立岡山中央中学校学校司書

みなさんにすすめたい本

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることとなります。

しょうがっこうていかくねんむ

小学校 低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	中住 千春	どろだんご、さいた	フレーベル館	72ページ 1188円

はるかはひっこしをする日、なかよしのすずちゃんからどろだんごをもらいます。どろだんごは2人のだいじな思い出です。ある日、たいせつにしていたどろだんごがあたらしいともだちのあみちゃんのせいでわれてしまいます。さて、はるかともあみちゃん、そしてすずちゃんのどろだんごはどうなるのでしょうか。



913	小林 深雪	ちびしろくまのねがいごと	講談社	79ページ 1296円
-----	-------	--------------	-----	----------------



しろくまのお母さんとふたごのこぐま、ユールとミールのお話です。しろくまたちは冬のあいだすあなですごし、春になると外のせかいへ出ていきます。たのしいこと、こわいこと、かなしいことなど、いろいろなことをけいけんしながらせいちようしていきます。ちびしろくまのせかいをのぞいてみませんか。

E	もとやす けいじ	カルガモゆうらんせん	佼成出版社	32ページ 1404円
---	----------	------------	-------	----------------

「かめのいけのりば」からカルガモゆうらんせんがしゅっぱつします。「はすいけのりば」までのたびをおたのしみください。まわりをよくみると、みなさんがよく知っているものがたくさんかくれていますよ。



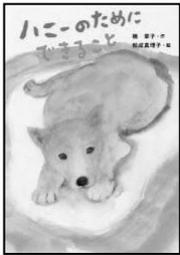
小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	いとう みく	だいじゅうたい 大渋滞	PHP 研究所	158 ページ 1512 円

家族4人、親せきのけっこん式に出るために車で名古屋までむかっています。だけど道は渋滞していて、パパとママもけんかばかりです。この旅行がおわったら、パパとママは離婚します。家族4人の最後の時間。目的地にとう着するまでにいろいろなできごとが起こります。家族はどうなるのでしょうか。主人公によりそって読んでみてください。



913	楠 章子	ハニーのためにできること	童心社	128 ページ 1188 円
-----	------	--------------	-----	-------------------



大すきなおばあちゃんがなくなって、ふたばはおばあちゃんのペットの犬、ハニーの新しいかい主になりました。しかしハニーも、もう長くは生きられそうにありません。ふたばはハニーのために何ができるのかひしひしと考えます。いのち、というものに向き合う心温まるお話です。

489	佐和 みずえ	山の子テンちゃん 空から落ちてきた小さいのち	汐文社	89 ページ 1620 円
-----	--------	---------------------------	-----	------------------

テンという動物を知っていますか？ある春の日、山寺のてんじょうからぽとつと音がしました。生まれてまもないテンの赤ちゃんが落ちてきたのです。安東さんとテンちゃんとの2年間の暮らしが書かれています。どのように成長するのは、よんでからののお楽しみです。



E	山本 真嗣	47 都道府県をたびしよう！ にっぽん全国のさがしもの	PHP 研究所	56 ページ 1836 円
---	-------	--------------------------------	---------	------------------



びょうきでねこんでいるいなりひめのために、まきえもんが日本全国をまわって、おいしいものを探す旅に出ます。かく県のみりよくがたっぷりつつまった1冊です。わくわくしながらページをめくってみてください。行ったことのあるところや、行ってみたいところがきっと見つかります。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	吉野 万理子	昨日のぼくのパーツ	講談社	219ページ 1512円

けがで入院し元気をなくしたじいちゃんをはげますために、自由研究でトイレに関する悩みを調べることにした大志。途中3人のクラスメイトも加わって、ウンコやトイレについて真剣に考えていくと、今までいやだと思っていたものの大切さに気がついてきて……。



933	シルヴィア・ ビショップ	モノ・ジョーンズと からくり本屋	フレーベル館	181ページ 1512円
-----	-----------------	---------------------	--------	-----------------



5歳のとき、本屋に置いてけぼりにされてしまった女の子モノ。けれどモノはその本屋の人たちと家族になって仲良く暮らしていた。そんなある日家族に思いがけない幸運がやってくる。なんと大抽選に当選したのだ！だがその裏には実はとある秘密が隠されていて……。

916	堀米 薫	うみべの文庫 絵本がつなぐ物語	文研出版	159ページ 1512円
-----	------	--------------------	------	-----------------

みやぎけんしおがまし
宮城県塩竈市にある「うみべの文庫」は、東日本大震災の
つなみ ひさい
津波で被災しながらも多くの人の優しさと協力で誕生した
たんじょう
図書館です。運営者の長谷川さんの絵本に対する愛情と、絵
はせがわ
本や言葉の力を感じることができる1冊です。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	いとう みく	天使のにもつ	童心社	223 ページ 1404 円

職場体験で保育園に行くことになった風汰。特に思い入れもなく軽い気持ちで決めたのだ。保育園の1日はめまぐるしく、仕事の奥深さを目の当たりにする。持ち前の明るさで園児たちになつかれる風汰だったが、しおんという1人の園児のことが気になりはじめる。



933	リンダ・スー・バーク	ジュリアが糸をつむいだ日	徳間書店	256 ページ 1728 円
-----	------------	--------------	------	-------------------



韓国系アメリカ人のジュリアは、クラブの自由研究でカイコの飼育しいくに取り組むことに。親友パトリックとの家庭環境の差、人種へんけんの違いと偏見、循環型社会、生き物の命、そしてアイデンティティ。様々な疑問や悩みとぶつかりながら成長していくさわやかな物語。

519	保坂 直紀	クジラのおなかからプラスチック	旬報社	156 ページ 1512 円
-----	-------	-----------------	-----	-------------------

私たちの生活に便利で欠かせないプラスチック。現在そのプラスチックがごみになり、海を汚染し、生き物が苦しめられている。私たちは今、なにをすればいいのか。考えてみよう。



みなさんにすすめたい本

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることとなります。

しょうがっこうていかくねんむ

小学校 低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	かんの ゆうこ	ソラタとヒナタ みえない星空	講談社	95ページ 1430円



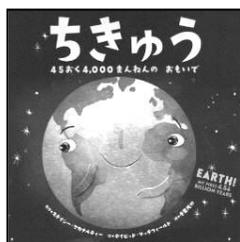
のんびりやのソラタと、おっちょこちょいのヒナタは、いつもなかよしです。けんかをしたり、ほかの子とあそんだり、こわいことがおこったりすることもあるけれど、どんなときでも2人はたすけ合います。ソラタとヒナタのたのしい4つのお話がまっています。

E	パット・ ジトロミラー	ソフィー、がっこうへいく	光村教育 図書	32ページ 1540円
---	----------------	--------------	------------	----------------

ソフィーには、ボニーとバクスターというかぼちゃのおともだちがいます。ママは、1年生になったソフィーに「たくさんおともだちができそうね。」といます。でも、ソフィーはボニーとバクスターいがいのともだちはいらないと思っています。さて、ソフィーににんげんのおともだちはできるのでしょうか。



E	ステイシー・ マカナルティ	ちきゅう 45おく4,000まんねんのおもいで	小学館	36ページ 1540円
---	------------------	----------------------------	-----	----------------



みんながすすんでいる「ちきゅう」について、どれだけのことをしていますか。いつ生まれたのかな。うちがわはどうなっているのかな。そして、にんげんはいつからすむようになったのかな。この本をよむと、「ちきゅう」のことについてくわしくたのしくすることができます。

小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	白矢 三恵	うそつき タケちゃん	文研出版	127ページ 1430円

転校した学校でタケちゃんという、うそばかりつくお調子者と出会います。最初は苦手だと思っていた「ぼく」は、一緒に過ごす中で友達だと思えるようになっていきます。でも、ある日大変なことが起きて、2人の友情がピンチに……。



913	岩佐 めぐみ	ぼくは気の小さい サメ次郎といひます	偕成社	117ページ 1320円
-----	--------	-----------------------	-----	-----------------



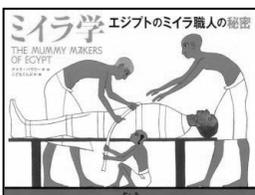
主人公のサメ次郎のすむクジラ海は、とても広い海です。たくさんの生き物が住んでいるのに、サメ次郎には友だちが一人もいません。サメという見た目ですべてみんなこわがってなかよくしてくれません。こんなに世界は広いのだから、きっと友だちもできるはず！気の小さいサメ次郎に友だちができるまでの物語です。

913	山本 悦子	犬が好きなぼくと おじさんとシロ	岩崎書店	86ページ 1210円
-----	-------	---------------------	------	----------------

なかよしの友だちから家においでとさそわれた。行ってみると、柴犬の赤ちゃんがいた。友だちと遊ぶ様子がとてもかわいくて、ぼくも犬がかいたくなかった。家族にお願いしてもなかなか聞いてもらえない。そんなある日、ぼくの前に1ぴきの犬が現れた。でもその犬にはかいぬしがいて……。



242	タマラ・パウワー	ミイラ学 エジプトのミイラ職人の秘密	今人舎	40ページ 2200円
-----	----------	-----------------------	-----	----------------



ミイラと聞くと、こわいものというイメージがありませんか。でも本当は、亡くなった人の体をていねいにきれいにして、永遠に保存したものなのです。この本は、ミイラを作るミイラ職人の仕事について、とてもくわしく紹介してあります。ミイラはどうやって作られるのでしょうか。ぜひ読んでみてください。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	清水 温子	こちら妖怪お悩み相談室	岩崎書店	199ページ 1430円

小学6年のリカは人間だけれど、妖怪お悩み相談室の相談員です。リカは、妖怪の悩みを聞いて解決策を見つけ出すうちに、妖怪も人間と同じように生きていることに気づき、世界の広さを実感します。あきらめずに困難を乗り越えてゆく少女の成長物語です。



933	アリッサ・ ホリングスワース	11番目の取引	鈴木出版	349ページ 1760円
-----	-------------------	---------	------	-----------------



何もかも失い、じじと2人で故郷のアフガニスタンからアメリカへやってきたサミ。さらに、ただ唯一持ってこられた楽器ルバーブを盗まれてしまう。なんとか取り戻そうと計画するサミのため、徐々に協力しようとする人たちが集まってきて……。

645	菅 聖子	走れ！メープル 犬の車いすができるまで	小峰書店	179ページ 1650円
-----	------	------------------------	------	-----------------

病気で下半身がまひしてしまった愛犬を、元気に自由に走れるようにしてあげたい。そんな思いから、手作りの車イスを作った飼い主の忠さん。さらに忠さんは、ほかにも困っている犬を助けたいと、ボランティアで犬の車イスを作り始め、ついには会社を立ち上げます。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	黒川 裕子	天を掃け	講談社	266ページ 1650円



モンゴルで育った駿馬^{しゅま}は天性のランナーだったが、日本に帰国後、陸上の試合で骨折をしてしまう。けがをしてからの毎日をダラダラ過ごしていた駿馬は「小惑星」を見つけることに全てをかけているすばると出会う。仲間とともに天文部を再開し観測を続ける内、駿馬の中で何かが動き始める。

973	ジュゼッペ・フェスタ	飛ぶための百歩	岩崎書店	157ページ 1540円
-----	------------	---------	------	-----------------

ルーチョは目が見えないが、何でも自分でやりたい少年。おばのベアと一緒にいったアルプス登山でのキアラとの出会いや山での体験が、かたくなに人の手助けをこぼんでいた彼の心をほぐす。新たな人生を切り開くため、彼がとった行動は？



360	チェルシー・クリントン	Start Now! はじめて考える地球のもんだい	潮出版社	124ページ 1870円
-----	-------------	------------------------------	------	-----------------



今地球で起きている様々な問題について具体的に説明すると共に、「いま、はじめよう！」には、解決するためにできることが挙げられています。知るだけでなく、行動にうつすことができる本です。ぜひ1つでも挑戦してみましよう。

指定図書選定委員会

令和2年3月3日(火),岡山県県立図書館において,指定図書選定委員会を開く予定であったが,新型コロナウイルス対策に伴う措置により,中止とした。それぞれリストアップされた候補作の中から,優先順位1位のを令和2年度第66回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定することとした。また来年度4月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は,候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

指定図書選定委員

県SLA会長	高槻 信博	岡山県立倉敷青陵高等学校長
副会長	山本 義人	岡山市立千種小学校長
	水畑 法生	岡山市立岡北中学校長
小教研事務局長	太田 淑子	岡山市立千種小学校
小教研事務局長	酒本 薫	岡山市立西江小学校
中教研事務局長	笹野 恭代	岡山市立妹香和中学校
中教研事務局長補佐	海野 行晴	岡山市立岡輝中学校
県SLA事務局長	王尾 宏造	岡山県立倉敷青陵高等学校
アドバイザー	江尻 寛正	県教育庁義務教育課指導主事(主任)
選定委員	木下由布子	岡山市立興除小学校
	小川 薫	岡山市立芳泉小学校
	山内 祐子	岡山市立牧石小学校
	村田 博子	岡山県立図書館
	村上 詩織	岡山市立灘崎小学校
	川井 益美	倉敷市立多津美中学校
	西川 依里	岡山市立上道中学校
	稲田 智恵	岡山市立岡山中央中学校
	岡本 大典	倉敷市立琴浦中学校
	藤本 久美	倉敷市立東中学校
	古市絵美子	倉岡山市立岡山中央中学校

岡山県指定図書について

1 内容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他,岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2 目的

- (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
- (2) 何をどう読ませるか, 図書の選択や読書指導の手がかりにする。
- (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ, 読書生活を豊かにさせる。
- (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の

有効活用を図る。

3 方法

- (1) 岡山県指定図書は, 指定図書選定委員会を設けて協議し, 決定する。
- (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
- (3) 冊数は, 小学校低学年3点, 小学校中学年3点, 小学校高学年3点, 中学校3点とする。

4 その他

- (1) 字数, 用紙, 応募作品, 出品数, 締め切り, 送付先, 審査, その他の注意事項については, 他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については, 自由読書と一緒にして再度審査し, 規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は, 昭和55年度(第26回)から設けている。

令和元年度岡山県指定図書(県指定)

小学校低学年	『まかせて!母ちゃん!!』 くすのき しげのり(文溪堂) 『おかわりへの道』 山本 悦子(PHP 研究所) 『ぼんやきゅう』 指田和(ポプラ社)
小学校中学年	『おれからもうひとりのぼくへ』 相川 郁恵(岩崎書店) 『星空を届けたい 出張プラネタリウム、はじめました!』 高橋 真理子(ほるぷ出版) 『まなぶ』 長倉 洋海(アリス館)
小学校高学年	『よりみち3人修学旅行』 市川 朔久子(ぼぶら社) 『野生のロボット』 ピーター・ブラウン(福音館書店) 『しあわせの牛乳』 佐藤慧(ポプラ社)
中学校	『ヴァンダーカンマーここは魅惑の博物館』 榎崎 茜(理論社) 『明日のランチはきみと』 サラ・ウィークス・ター・ヴァラダランジャン(フレーベル館) 『みんなちがって、それでいい パラ陸上から私が教わったこと』 宮崎 恵理(ポプラ社)

2 報告事項

(1) 令和元年度事業計画

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/9(木)	倉敷青陵高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
6月	第70回総会及び研修会	6/4(火)	ライフパーク倉敷	・平成30年度事業・決算報告 ・平成31年度事業計画・予算案
	第1回司書部会理事会及び研修会	6/6(木)	倉敷青陵高等学校	・学校司書実態調査について ・学校司書研修会について ・岡山大会について、各地区情勢報告
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/13(木)	倉敷青陵高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	平成31年度岡山県学校司書研修会	7/30(火)	灘崎文化センター他	・全体会、講演会 その他
8月	第53回岡山県学校図書館研究大会 (岡山大会)	8/23(金)	岡山ふれあいセンター	・講演、分科会
10月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/3(木)	香和中学校	・審査会準備
	第2回司書部会理事会及び研修会	10/7(月)	倉敷青陵高等学校	・学校司書研修会報告について ・2020年度研究協議会について
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/8(火)	倉敷青陵高等学校	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/24(木)	千種小学校	・小中高別の審査
		10/24(木)	香和中学校	
10/24(木)		倉敷古城池高等学校		
11月	読書感想文コンクール最終校正会議	11/28(木)	倉敷青陵高等学校	・「読書感想文集2019」最終校正
12月	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/12(木) 10(火)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/9(木)	倉敷青陵高等学校	・平成31年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想画コンクール審査会	1/10(金)	建部小学校	・小中高別の審査
		1/10(金)	多津美中学校	
		1/10(金)	倉敷古城池高等学校	
2月	代表理事会及び研修会	2/13(木)	倉敷青陵高等学校	・2020年度総会提出議案の協議
	第3回司書部会理事会及び研修会	2/17(月)	倉敷青陵高等学校	・2020年度研究協議会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他
3月	指定図書選定委員会	3/3(火)	岡山県立図書館	・2020年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 岡山支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
第1回 正・副会長研修会	5月21日(火)	岡山市立岡輝公民館	・平成30年度事業報告・決算報告 平成31年度事業計画・予算案等	12
総会並びに第1回区別研修会	5月31日(木)	岡山市立御津公民館	【総会】 ・平成29年度事業報告・決算報告 平成30年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)	143
第1回 理事研修会	6月20日(木)	岡山市立曾根小学校	・平成31年度県大会発表へ向けて準備	12
第1回 研究部会	7月1日(月)	岡山市立岡輝公民館	・第65回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて	18
第2回 研究部会	7月26日(金)	岡山市立曾根小学校	・平成31年度県大会発表へ向けて準備	13
全体研修会並びに第2回区別研修会	7月29日(月)	岡山市立御津公民館	・第65回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて	197
岡山県学校図書館研究大会岡山大会	8月23日(金)	岡山ふれあいセンター	【講演会】 ・「物語を編む・物語を手渡す」 ノートルダム清心女子大学 教授 村中 李衣 先生	229
第65回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査会(区)	9月10日(木)	北1区 岡山市立津高公民館	・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦	35
	9月10日(木)	北2区 岡山市立三門小学校		28
	9月10日(木)	中区 東山ランチ		26
	9月9日(水)	東区 岡山市立江西小学校		27
	9月10日(木)	南区 岡山市立妹尾小学校		36
				計152
第65回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査会(市)	9月17日(木)	岡山市ウエルポートなださき	・特選(県出品)・金賞・銀賞作品の選考	39
第2回理事会研修会	12月5日(木)	岡山市立曾根小学校	・第3回区別研修会に向けて	15
研修会(理事会)	1月23日(木)	岡山市立曾根小学校	・第3回区別研修会に向けて	10
第3回区別研修会	1月28日(火)	北1区 建部文化センター	・北1・2区、南区は実践報告会を行った。 ・中区は、岡山大学教育学部教授 田中智生先生の講演会を行った。 ・東区は、岡山市中央図書館司書・絵本専門士 石原恵以子さんの講演会を行った。	179
	2月4日(火)	北2区 岡山市立三門小学校		
	2月4日(火)	中区 岡大付属小学校		
	1月27日(月)	東区 西大寺中学校		
	2月4日(火)	南区 岡山市立妹尾小学校		
第3回 理事会研修会(中止)	3月5日(木)	岡山市立曾根小学校	・各区別研修会の反省	
第2回 正・副会長会(中止)	3月10日(火)	岡山市立曾根小学校	・平成31年度事業報告・令和2年度事業計画案	
反省と課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・各区別研修会では、事前に各区で会員の要望を聞いてから研修内容を計画し、ニーズに合わせた実践報告や講演会をすることができた。 ・研究発表については、輪番で行うため、継続して研究する部員が少なく、今後の研究のあり方について検討していく必要がある。 ・読書感想文の出品について、書き方や文字数など細かい点も各校へ周知徹底ができていないことがあった。また、賞状の記入ミスが多くあり、追加配布することが多かった。全体へ周知徹底する方法を検討する必要がある。 ・岡山市は学校数が多く、事務局の仕事が大変煩雑になるので、来年度以降、事務局の仕事内容の精選と分業化を進めていきたい。 				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 赤磐支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
主任者会	H31. 4月23日(火)	赤磐市立桜が丘中学校	H30年度事業報告・H31年度事業計画協議等	18人
読書感想文審査会及び研修会	R1. 9月12日(木)	赤磐市立笹岡小学校	読書感想文審査・読書感想文の指導についての研修	17人

支部協議会名 和気支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
第1回和気郡図書館協議会研修会	5月 7日(火)	佐伯小学校	平成30年度の事業報告と令和元年度の事業計画について話し合った。	5
和気郡読書感想文審査会並びに研修会	9月10日(火)	本荘小学校	読書感想文の審査を行った。取り組み方の状況と課題について、各校の実態を元に話し合い、研修を深めた。	8
反省と課題 読書感想文の書き方や取り組み方に個人差があり、各校での各学級での指導が必要である。				

支部協議会名 備前支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
第1回 備前市学校図書館部会研修会	4月23日(火)	備前中学校	○平成30年度の事業報告, 平成31年度の組織作り・事業計画作成	15名
第1回 司書部会研修会	5月1日(水)	備前中学校	○各校の情報交換	
第2回 司書部会研修会	6月21日(金)	伊里中学校	○平成30年度の活動報告, 令和元年度の計画立案, 小・中学校各部会研修	
第2回 研修会並びに読書感想文審査	小学校の部 9月12日(木)	東鶴山小学校	○おすすめの本の紹介, 各校の資料提供, 小・中学校各部会研修	
	中学校の部 9月12日(木)	備前中学校	○各校の読書指導情報交換, 読書感想文の審査と反省	
第3回 司書部会研修会	9月12日(木)	吉永中学校	○各校の読書指導情報交換, 読書感想文の審査と反省	5名
第4回 司書部会研修会	12月18日(水)	東鶴山小学校	○おすすめの本の紹介, 全体研修の協議, 小・中学校各部会研修会	14名
第5回 司書部会研修会	2月26日(水)	日生西小学校	○おすすめの本の紹介, 本のポップ作成講座, 小・中学校各部会研修会	14名
反省と課題 (読書感想文審査会より) 生徒数減少に伴い総数が減っているので、賞の上限まで出切るのが難しくなっている。本の内容に関するあらすじの説明と、自分の体験のバランスが難しく、生活文風の作品が何点かあった。 (司書部会研修会より) 研修内容を高め、より一層実りある司書部会として、研修を各校に反映し、図書館活動及び児童生徒の読書活動を深めるように努めたい。				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 瀬戸内支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
第65回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会	9月12日(木)	瀬戸内市中央公民館	読書感想文の審査と審査に係る研修等	18人

支部協議会名 玉野支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
・玉野市学校図書館協議会総会 及び研修会	6月20日(木)	日の出ふれあい会館	・平成30年度支部事業・決算等報告 ・令和元年度支部事業・予算等計画 ・読書感想文コンクール実施計画	23名
・青少年読書感想文コンクール (小学校)	9月12日(木)	日の出ふれあい会館	・小学校低・中・高学年で各類ごとに審査	22名
支部審査会及び研修会 (中学校)	9月24日(火)	日の出ふれあい会館	・中学校各類ごとに審査	13名
・司書研修会	毎月1回	各小中学校輪番	・各学校情報交換と「おすすめの本」の紹介	23名
反省と課題 ・読書感想文コンクールの審査や、読書感想文集の取りまとめについては先を見通して取り組むことができている。事務局が交代する際に、きちんと引継ぎができる体制を整えたい。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上には寄与しているが、司書教諭との連携等が課題である。				

支部協議会名 加賀支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
・第1回研修会	5月15日(水)	加賀中学校	・本年度の計画立案	14人
・第2回研修会	9月13日(金)	大和小学校	・読書感想文の書き方指導等についての研修	11人

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 倉敷

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
学校図書館協議会第1回理事会及び総会	6月20日（木）	くらしき健康福祉プラザ	今後の見通しの計画の立案	200人
学校図書館協議会第2回理事会	7月31日（水）	玉島西中学校	研修会の計画の立案	28人
学校図書館協議会研修会	8月6日（火）	くらしき健康福祉プラザ	「豊かな心を育む学校図書館教育」（横川亨先生を講師にお招きして）	200人
読書感想文コンクール水島地区審査（中）	9月2日（月）	連島中学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール船穂・真備地区審査（小）	9月3日（火）	呉妹小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール倉敷地区審査（中）	9月3日（火）	多津美中学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール玉島・船穂・真備地区審査（中）	9月4日（水）	玉島北中学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール児島地区審査（小）	9月4日（水）	本荘小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール児島地区審査（中）	9月5日（木）	下津井中学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール倉敷東地区審査（小）	9月5日（木）	倉敷南小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール倉敷西地区審査（小）	9月5日（木）	倉敷南小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール水島地区審査（小）	9月5日（木）	第五福田小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール玉島地区審査（小）	9月5日（木）	玉島南小学校	中央審査に向けての読書感想文の地区別の審査	約30人
読書感想文コンクール中央審査（小）	9月13日（金）	ライフパーク倉敷	県出品に向けての審査	約30人
読書感想文コンクール中央審査（中）	9月19日（木）	ライフパーク倉敷	県出品に向けての審査	約30人
学校図書館協議会第3回理事会	2月18日（火）	玉島西中学校	本年度のまとめと来年の計画の立案	28人
<p>反省と課題</p> <p>今年度と同様に来年度も取り組みたいと考えています。</p>				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 浅口支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
小教研浅口支会学校図書館教育研究部総会・部会	5月 8日(水)	浅口市中央公民館	研究テーマ・事業計画立案	14人
小教研浅口支会学校図書館教育研究部夏季研修会	8月 1日(木)	浅口市立寄島小学校	ワークショップ・講演 「英語絵本の楽しみ方 ～歌と絵本でABC～」 講師 メリーバスライド倉敷 堀内雅子先生 橋本易子先生 財部美代子先生	15人
読書感想文浅口支部審査会	9月 13日(金)	里庄町立里庄西小学校	読書感想文支部審査	25人
反省と課題 夏季研修会では、英語の絵本を使って楽しい読み聞かせのこつを、実際に体験しながら具体的に教えていただいた。 また、読書好きな子どもを育てるために、英語の授業で使えそうなたくさん本を紹介していただいた。その中から参加者が選んだ本を使って、実際の授業で、読み聞かせを行う場面でどのような取組ができるのかを具体的に教えていただいた。英語の授業で盛り上がりそうな具体的な読み聞かせの方法などを多く教えていただき、今後に生かせる研修だった。				

支部協議会名 笠岡支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会(小中合同)	5月 7日(火)	笠岡市立中央小学校	○研究テーマと研究計画の決定 テーマ「豊かな心を育む学校図書館づくり」	18人
笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会(小中合同)	7月 25日(木)	笠岡市立図書館	○「図書館に学ぶ」 図書館の取り組みについて学ぶ。各校の校内読書週間の取り組みについて情報交換をする。	22人
第53回岡山県学校図書館研究大会(岡山大会)	8月 23日(金)	岡山ふれあいセンター	○「学校図書館の目指すべき姿を学ぶ」 研修参加 テーマ「児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して～学校図書館の機能を活かして～」	11人
読書感想文コンクール審査会	9月 19日(木)	笠岡市立陶山小学校	○読書感想文岡山県コンクールの審査	
反省と課題 ・「図書館に学ぶ」では、図書館の取り組みについて学ぶことができた。また、校内読書週間の取り組みの情報交換ができてよかった。 ・「学校図書館の目指すべき姿を学ぶ」では、「学習センター」「読書センター」として、どのように役割を果たしていけばよいかについて学ぶことができた。				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 小田支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
小田郡学校図書館協議会（小学校）	5月8日（水）	矢掛町農村環境改善センター	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度事業報告 ・役員選出 令和元年度事業計画立案 	7人
小田郡学校図書館協議会総会 並びに感想文審査会	9月9日（月）	矢掛町立美川小学校	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度事業報告 ・令和元年度事業計画 読書感想文の支部審査会 予算決算報告 	10人
反省と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年相応の読書をすすめる工夫が、今後も必要である。（特に保護者の協力を得ながら、家庭での読書の推進をいかに進めていくべきか） ・ 読書感想文の書き方の指導については、県に送付する作品の表記については、指導者の共通理解が必要である。 ・ 本年度の図書館協議会は、事業の見直しを行い協議会総会と感想文審査を同日に行った。事業計画などは小教研の図書館部会で審議して総会で中学校・高校の承認をいただく形にした。支部の読書感想文集製本は、児童数減少のため予算規模が縮小したため本年度より事業中止とした。 				

支部協議会名 井原支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
読書感想文支部審査会	9月19日（木）	井原市立芳井小学校	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の活動計画 井原市学校図書館協議会の役員紹介 支部審査会（小学校の部・中学校の部） 	19名
	10月	各校	<ul style="list-style-type: none"> 支部作品の表彰 	
	10月		<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文集の注文とりまとめ 	
	1月21日（火）		<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文集の配布 	
	1月	各校	<ul style="list-style-type: none"> 県出品作品の表彰 	
反省と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想文の出品数、文章量、内容において、やや不十分な感が否めない。指導の充実が望まれる。 ・ 事務局の不手際で応募票に指定の入っていない物を使った学校があり、分類の誤りにつながった。「指定図書」の記載のある応募票を各校に送り、確認することが必要である。 				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 総社支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
図書館教育班会				
第1回図書館教育班会（総社市教育研修所総会）	5月10日（金）	総社中学校	研修計画立案等	13名
第2回図書館教育班会	6月12日（水）	宮脇書店総社店	新刊を含む児童書等の選書会	13名
第3回図書館教育班会	6月20日（木）	総社市図書館	総社市図書館との連携・情報交換	12名
第64回岡山県青少年読書感想文コンクール 総社支部審査会	9月10日（火）	維新小学校	読書感想文コンクール審査	23名
学校司書部会				
第1回学校司書部会	7月24日（水）	総社東中学校	司書部会研修計画 総社市学校司書業務マニュアル改定について検討	
第2回学校司書部会	8月5日（月）	維新小	学校図書館システム研修	12名
第3回学校司書部会	8月22日（木）	総社東中学校	総社市学校司書業務マニュアル改定について検討	12名
第3回学校司書部会	12月6日（金）	維新小学校	読書週間の報告 相互貸借に役立つ選書について等	12名
第4回学校司書部会	2月7日（金）	維新小学校	蔵書の点検・整理について 今年度の反省 来年度の計画等・学校図書館システム研修	12名
令和元年学校司書研修会	7月30日（火）	灘崎文化センター	研究会参加	12名
第53回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）	8月23日（金）	岡山ふれあいセンター	研究会参加	
<p>反省と課題</p> <p>（班会）今年度も総社市図書館と情報交換の場をもち、連携しながら様々な活動を推進することができた。</p> <p>（司書部会）今後の小・中学校間での相互貸借を促進するため、より需要の高い資料についての情報交換・選定を進めている。また、図書館運営システムの研修も継続しており、有効な活用につながられている。</p> <p>来年度も引き続き有意義な研修を行ってきたい。</p>				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 高梁支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
研修会	7月5日(金)	高梁市立高梁中学校	○年間計画の作成・配布物の説明	21名
読書感想文コンクール審査会	9月12日(木)	高梁市図書館	○読書感想文コンクール審査	20名
研修会 (学校図書館司書部会との合同研修会)	2月17日(月)	高梁市図書館	○実技講習 (講師) 高梁市図書館 中野 茉莉恵 氏 (他3名) (内容) 図書の修理 ○協議 ・部会ごとの情報交換等 ・図書館教育について ・今年度の取り組みの反省	19名
<p>反省と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼を行った。夏季休業の課題として取り組むためにも、研修会開催があまり遅くならないように配慮したいが、他行事との関係もあり学期末の慌ただしい時期になってしまった。 ・第1回研修会において感想文コンクールについての確認事項を連絡することで、校内審査や提出書類について適正になされてきている。徹底が十分できていない面もあるが、感想文コンクール審査会は、小学校と中学校では、出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なるため、審査後に反省や今後に向けての協議ができにくい点が課題である。 ・学校図書館司書部会との合同研修会では、高梁市図書館の方を講師としてお招きし、図書の修理についての実技講習を行った。初めて知ることも多く、大変参考になった。また、図書館教育について情報交換を行うことができた。 				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 新見支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
学校図書館協議会理事会	6月 13日 (木)	新見教育会館	活動内容の審議、役員選抜	4
学校図書館担当者研修会	6月 26日 (火)	新見市役所	事業報告、読書感想文コンクールについて、研修	21
読書感想文支部審査会	9月 19日 (木)	新見教育会館	読書感想文審査	20
学校図書館協議会理事会	3月 17日 (火)	新見教育会館	活動の反省、決算報告、役員選抜	4
反省と課題 研修会では各校の実践事例について話し合うことができた。				

支部協議会名 津山支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
津山市学校図書館協議会 第1回総会・研修会	7月 4日 (木)	津山中央公民館 中会議室	組織体制や活動計画についての協議	30人
図書選定会	8月 20日 (火)	津山ブックセンター	児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	22人
津山市読書感想文コンクール審査会	9月 20日 (金)	津山市役所 東庁舎	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	33人
図書選定会	1月 21日 (火)	津山ブックセンター	児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	16人
津山市学校図書館協議会 第2回総会・研修会	2月 14日 (金)	津山市役所 東庁舎	来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議 研究集録「あゆみ」の編集作業	37人 (予定)
反省と課題 ・支部内の連絡方法を「C4th」に切り替えた。担当者の確認漏れ等があるため、来年度以降も連絡を徹底していきたい。 ・市の読書感想文コンクール審査会から、県への提出締切までの期間が短く、作品等の出品準備が慌ただしかった。もう少し余裕を持って取り組めるよう、日程を工夫したい。 ・仕事内容の精選や、事務局次長との仕事の分担など、来年度に向けて負担の軽減に努めたい。				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 苫田支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
苫田郡学校図書館協議会総会・研修会	7月5日（金）	鏡野町立富小学校	・平成30年度事業報告・会計報告 ・令和元年度役員選出、事業計画、予算案、情報交換等 ・第65回岡山県青少年読書感想文コンクールについての説明	10人
読書感想文郡審査会	9月10日（火）	鏡野町中央公民館	読書感想文苫田郡審査	12人
苫田郡学校図書館協議会第2回研修会	2月28日（金）	鏡野町中央公民館	・鏡野町立図書館の司書の方の話 ・県学校図書館協議会支部事務局長研修会より ・今年度の活動についての振り返り	11人
反省と課題 ・支部の活動については、特に課題を感じるようなことはなかった。ただ、児童・生徒に読書感想文の書き方を指導する時間が十分にとれないこと、また、書き方指導の難しさ、さらに言えば、児童生徒の読書内容を充実させるにはどうしたらよいか、これらに課題が残る。				

支部協議会名 勝田支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
勝田郡学校図書館協議会総会・研修会	7月9日（火）	勝間田小学校	度事業報告・決算報告	6名
勝田郡読書感想文審査会（中学校の部）	9月9日（月）	勝中央中学校	事業計画・予算案 読書感想文コンクールについて 読書感想文審査	6名
勝田郡読書感想文審査会（小学校の部）	9月19日（木）	勝間田小学校	読書感想文審査	4名
勝田郡学校図書館協議会研修会	1月17日（金）	勝間田小学校	岡山県学校図書館協議会運営について 勝田郡学校図書館協議会活動反省	5名
反省と課題 ○勝田支部は小学校3校、中学校2校である。読書感想文審査会は少数校での実施であるため、作品の質的向上、審査員の確保が難しかった。				

令和元年度支部協議会事業報告

支部協議会名 久米支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
岡山県事務局長会及び研修会 久米郡学校図書館協議会総会・研修会	6月 13日 (木)	倉敷青陵高校	平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・予算案審議	1
	7月 11日 (木)	美咲町立柵原東小学校	平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・予算案審議	13
久米郡読書感想文審査会	9月 13日 (金)	美咲町役場	読書感想文支部審査 (中学校)	4
久米郡読書感想文審査会	9月 19日 (木)	美咲町役場	読書感想文支部審査 (小学校)	8
岡山県事務局長会及び研修会	1月 9日 (木)	倉敷青陵高校	事務連絡	1
反省と課題				
事務局の引き継ぎをしっかりとしておくべきでした。				

支部協議会名 真庭支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
総会及び研修会	7月 1日 (月)	久世公民館	前年度事業報告、今年度役員選出、事業計画、予算案協議	26人
読書感想文支部審査会	9月 10日 (火)	久世公民館	読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明	28人
反省と課題				
今年度より、真庭支部の事務局はブロックごとの持ち回りとなった。ブロック内で会計・審査会の役割を各校に割り振り、分担して行い、効率的に行うことができた。次年度は各校の担当者や読書感想文の出品者名簿はサーバー内のファイルに直接入力してもらうようにして、より効率的に事務局業務を行えるように改善したい。				

支部協議会名 美作・西粟倉支部

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
支部総会・研修会	6月24日 (月)	勝田小学校	30年度事業・会計決算報告 31年度役員選出、事業計画、予算案、読感文ワーク等について	17
支部読書感想文審査会・研修会	9月18日 (水)	美作中学校	読書感想文審査	7
支部読書感想文審査会・研修会	9月25日 (水)	作東農業改善センター	読書感想文審査	11
反省と課題				
<ul style="list-style-type: none"> 支部総会の開催日を第1回事務局会の後6月中に実施。(夏季休業中の課題準備もあり取り組みが明確になった。) 支部読書感想文審査会の日程調整等、小中学校でできたのでよかった。(地区総体との関連に配慮) 運動会の開催時期と審査会の時期、県出品の手直しと県提出と難しいところもあるが、各自の協力でできたのがよかった。 				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 備前支部協議会

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
役員会	5月16日(木)	岡山後楽館高校	平成30年度事業報告・決算報告/平成31年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	11名
支部総会	5月16日(木)	岡山後楽館高校	平成30年度事業報告・決算報告/平成31年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	38名
第1回研究会	7月26日(金)	岡山後楽館高校	講演：学校図書館を活用した探求的な学習をイメージする ～情報の取り出し・整理分析・まとめのプロセスを追って～ 講師：環太平洋大学次世代教育学部 特任教授 横川 亨 先生	19名
第2回研究会	11月21日(木)	岡山後楽館高校	研究発表：「本校図書委員会の活動・取り組みについて」 発表者：岡山県立瀬戸南高等学校 教諭 吉原 史恵 先生、教諭 岡本 美樹 先生 事例発表：「総学・総探×図書館で、学ぶ力を育てる ～青陵高校の取り組み～」 講師：岡山県立倉敷高等学校 司書 吉岡 亜希子 先生	30名
第1回司書部会研修会	4月16日(火)	岡山県立図書館	担当別打ち合わせ/初任者研修 各支部研修：平成30年度活動報告・決算報告/平成31年度役員確認・活動予定・予算案/次回おすすめ本テーマ/次回開催校と内容/次回「プチ紹介」担当校/令和元年度岡山県高教研学校図書館部会研究協議会発表について/理事会より(岡山県学校司書研修会役割分担)/図書委員会交流会について 全体協議・連絡：ネットワーク研究委員会の各班からの今年度活動計画報告 合同研修：「新しいこと始めよう！」 サポート校グループによるフリートーク	30名
第2回司書部会研修会	6月28日(金)	岡山城東高校	プチ紹介(西大寺・和気関谷・就実)/岡山県高教研学校図書館部会研究協議会プレ発表 協議・連絡：理事会より/ネットワーク研究委員会より/次回おすすめ本テーマ/次回開催校と内容/次回「プチ紹介」担当校/学校図書館活用教育委員会より/読書推進・サポート班より/備前支部事務局より おすすめ本の紹介(海外の様子を伝えるような本・授業に役立つ本・フリーテーマ) 研修：「授業との連携」	25名
第3回司書部会研修会	12月10日(火)	岡山工業高校	合同研修：講演「クリエイティブ・スクールにおける情報リテラシー教育：学校司書と教師のコラボレーションを中心に」 講師：神奈川県立田奈高等学校 学校司書 松田ユリ子 氏/グループ研修「授業との連携：図書館年間利用計画の作成」 各支部研修：プチ紹介(岡山大空寺・備前緑陽・岡山後楽館) 協議：次回「プチ紹介」担当校/次回おすすめ本テーマ/次回開催校と内容/岡山県高教研学校図書館部会研究協議会備前地区司書担当分科発表 全体協議・連絡：県立図書館より/県事務局より/システム検討会より(県立学校蔵書管理システム一括採用・司書のおすすめ本の投稿・新メーリングリスト・メールレターOORSS2020)/読書推進班より/活用教育研究委員会より/ネットワーク研究委員会より	25名
第4回司書部会研修会	2月18日(火)	岡山学芸館高校	協議・連絡：プチ紹介(岡山南・玉野商工・朝日塾)/おすすめ本の紹介(SDGs・プラスチックごみ問題・授業に役立つ本・フリーテーマ) 研修：授業との連携「図書館年間利用計画」	
第1回生徒図書委員会交流会	6月8日(土)	岡山南高校	研修「図書館行事・イベントを企画しよう」/図書委員会活動の情報交換	16校47名
第2回生徒図書委員会交流会	12月14日(土)	水島工業高校	研修「とびだすPOPを「作ろう！」/図書委員会活動の情報交換	10校26名
反省と課題				
<p>今年度も7月と11月に研究会を開催した。7月は外部講師をお招きし、学校図書館を活用した探求的な学習の例として、リーフレットを作成するグループワークを実践した。また、11月は図書館活動の取組例の発表や総合的な学習(探求)の時間と連携した組織的な図書館教育の取組事例の発表を行った。どちらの研究会も有意義で、これぞ本研究協議会が担う役割であると実感するとともに、現状で抱えている悩みやアドバイスなどを共有することができた時間であった。</p> <p>また、本校は年度末で事務局を終えることになった。2年間という短い期間であったが、多くの関係校や先生方のサポートをいただきながら任期を全うすることができた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。また、後任の山陽女子高校と確実に引継ぎを行い、次年度の活動が円滑に開始されるよう努めたい。</p>				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 備中支部協議会

実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
1 役員会	月 日 ()			
第1回 役員会	令和元年6月25日(火) 13:00~13:30	矢掛高校	(1) 平成30年度事業報告及び会計報告 (2) 令和元年度事業計画及び予算(案) (3) 支部総会・研究協議について	7名
第2回 役員会	令和2年2月21日(金) 15:00~16:00	矢掛高校	(1) 令和元年度事業報告及び会計報告 (2) 令和2年度支部総会・研究協議について	7名(予定)
2 総会・研究協議会	令和元年6月25日(火) 14:00~16:00	矢掛高校	(1)報告事項・平成30年度事業報告及び会計報告・令和元年度役員紹介 (2)協議事項・令和元年度事業計画(案)及び予算(案) (3)実践報告「金光学園の読書教育について」金光学園高等学校 教諭 岡田伸彦 氏 (4)研究協議及び情報交換	45名
3 司書部会				
第1回(第235回)	平成31年4月16日(火) 9:50~16:30	岡山県立図書館	(1)支部研修 平成30年度司書部会活動報告・決算報告 平成31年度活動計画・予算案、役員確認 (2)合同研修① ネットワーク研修会 初任者研修 各支部研修 (3)合同研修② ワークショップ「新しいこと始めよう」 (4)サポート校グループによるフリートーク	24名
第2回(第236回)	令和元年9月12日(木) 10:00~16:00	倉敷商業高校	(1)研修Ⅰ「各学校の図書館から」(活動紹介) (2)研修Ⅱ「授業との連携」事例紹介 倉敷工業高校・倉敷中央高校・倉敷商業高校 サポート交流	22名
第3回(第237回)	令和元年12月10日(火) 10:00~16:00	岡山工業高校	(1)合同研修「クリエイティブ・スクールにおける情報リテラシー教育：学校司書と教師のコラボレーションを中心に」 講師 神奈川県立田奈高等学校 学校司書 松田ユリ子 氏 (2)グループ研修／各支部研修 全体協議	24名
第4回(238回)	令和2年2月20日(木) 13:00~16:30	金光学園中学・高等学校	(1)研修Ⅰ 「授業との連携」今年度のまとめ (2)研修Ⅱ 「年度末の追い込みと年度当初の準備」 情報交換	名
4 図書委員会交流会	令和元年12月14日(土) 13:00~16:30	水島工業高校	研修 「とびだすPOPを作ろう！」／情報交換	参加(26名/10校) 教職員 17名
反省と課題				
①司書部会と支部総会の日程が今年度から異なるという状況になったが、司書部会でも参加を呼びかけて頂き多くの司書の方に参加して頂けたのは事務局として大変有り難かった。				
②図書館部会全体の研究協議会への参加が若干少なく残念であった。まずは参加するというのが重要なので各校に呼びかけていきたい。				
③総会に参加されてない学校へ参加している各学校の先生方が資料を持っていってくださり、大変助かった。図書館部会の協力体制の大切さを改めて感じた。				

令和元年度支部協議会事業報告

岡山県学校図書館協議会

支部協議会名 美作支部

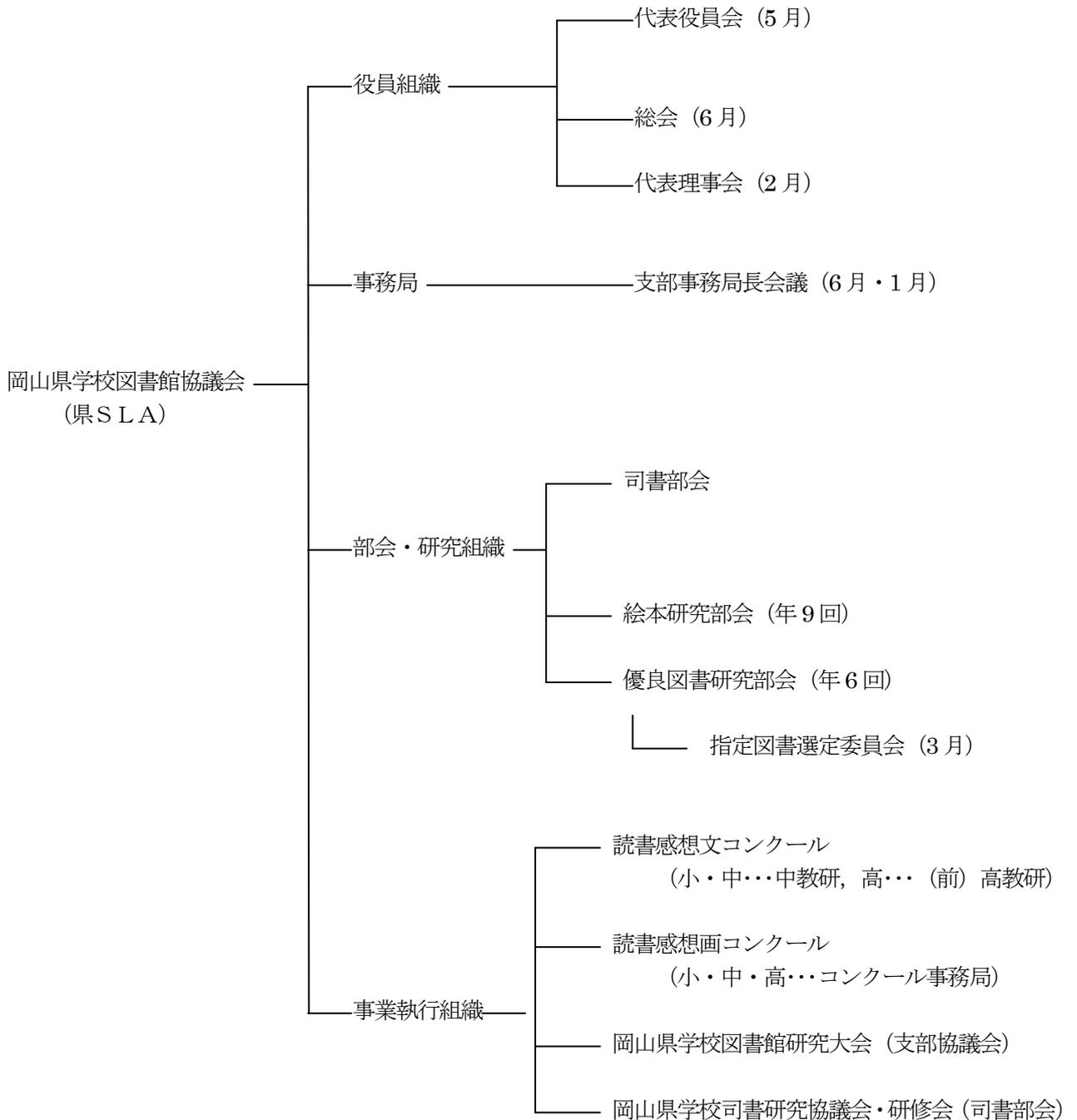
実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
第1回司書部会研修会（3支部合同）	4月16日（火）	岡山県立図書館	平成30年度活動報告・平成31年度活動予定、初任者研修・合同研修、全支部合同研修	11名
第1回支部役員会・研究協議会	5月10日（金）	津山高校	平成30年度事業報告、平成30年度会計決算報告、令和元年度事業計画案、令和元年度予算案、令和元年度美作地区図書委員会交流会案	7名（役員会） 12名（協議会）
第2回司書部会研修会（備前支部合同）	6月28日（金）	岡山城東高等学校	合同研修：学校紹介、高研学校図書館部会研究協議会発表について、グループ研修「授業との連携」 美作支部研修：協議連絡、おすすめ本の紹介	10名
第2回支部役員会	7月8日（月）	津山高校	第2回研究協議会の研修内容について	7名
令和元年度図書委員会交流会	8月7日（水）	津山工業高校	学校紹介、「NDCマップで言葉あつめ」	生徒18名 教職員6名
美作地区高校生読後感想文コンクール	7月～12月	津山商業高校	美作地区高等学校対象	9校31名
第2回支部研究協議会	12月6日（金）	津山高校	美作地区高校生読後感想文表彰式、令和2年度事業計画案 研修Ⅰ「岡山県立図書館が行っている月光図書館に対する支援について」岡山県立図書館図書館振興課近藤佐和子班長 研修Ⅱ「各校の図書委員の取組について」	生徒10名 教員10名
第3回司書部会研修会	12月10日（火）	岡山工業高校	合同研修「クリエイティブ・スクールにおける情報リテラシー教育」、情報交換、支部研修	9名
第4回支部研究協議会	2月18日（火）	津山東高校	協議連絡、おすすめ本、研修「授業との連携 今年度の活動まとめ」 令和2年度活動計画	10名
<p>反省と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会交流会：今年度は4校18人の参加があったが、前年に比べるとやや参加者が少なかった。時期についても再検討する必要がある。来年度は津山市立図書館と連携して交流会でブックノエルを実施することを検討している。 ・支部研究協議会：研修Ⅱで各校の図書委員会の取り組みについて情報交換したが、研修Ⅰの講演の後で実施したため短時間しか時間がとれなかった。次回は各校の図書館運営上の課題などについて十分な情報共有の時間を確保 				

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長のなかから選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副部会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき

は会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成 8年 6月 4日 一部改正

平成11年 6月 3日 一部改正

平成14年 5月30日 一部改正

平成17年 6月 2日 一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員

によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。

3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする

- ① 会則の改正
- ② 役員の選出
- ③ 事業計画並びに事業報告
- ④ 予算案並びに決算の承認
- ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員の過半数の出席をもって成立する。

3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。

4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。

- ① 役員の補充
- ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 69年の歩み (略年表)

西暦	年号	記録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (弓削中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (操山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡山	松尾, 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (操山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡山	深川 恒喜		内藤 一人 (操山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	臼井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (操山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 (深 柵) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡山	裏田 武夫		内藤 一人 (操山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿哲, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 梶原良太郎 (岡 北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	榎原良太郎 末平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 瀬原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 末平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表彰式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田一春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(牧石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(荘内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		榎野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(荘内小) 黒住 有雄(足守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聡		西田 譲(一宮)	森川 鐵也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興余中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興余中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(興余中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(興余中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(興余中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気郡谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気郡谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)ひこく		(46)井原後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董 岡 直博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 郁雄 瀬川 宏	榎野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鐵也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬川 宏 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野おどり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋おどり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木カヨ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東嶽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷中城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米子	(52)津山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷中城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2018	30	55号	(41)富山高岡					土家 横夫 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 藤井 隆 (高松中)
2019	1	56号		(31)山口	(53)岡山	村中李衣		高槻 信博 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 水畑 法生 (岡北中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅人 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅人 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二宮 野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二宮 野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二宮 野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰栄 宗實 利子 利守 雅人	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅人	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	藤井 隆 仁科 恵子 佐伯 詩帆	土家 横夫 大口 千恵子	(42) 岡 山	西村 百代 成 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	水畑 法生 笹野 恭代 海野 行晴	高槻 信博 大口 千恵子	(43) 岡 山	成 由貴

岡山県学校図書館研究集録（第 56 号）

発 行 日 2020 年 3 月 31 日

発 行 所 岡山県学校図書館協議会事務局
 〒710-0043
 岡山県倉敷市羽島 1046-2
 岡山県立倉敷青陵高等学校内
TEL (086)422 – 8001

発行責任者 岡山県学校図書館協議会会長
 高槻 信博